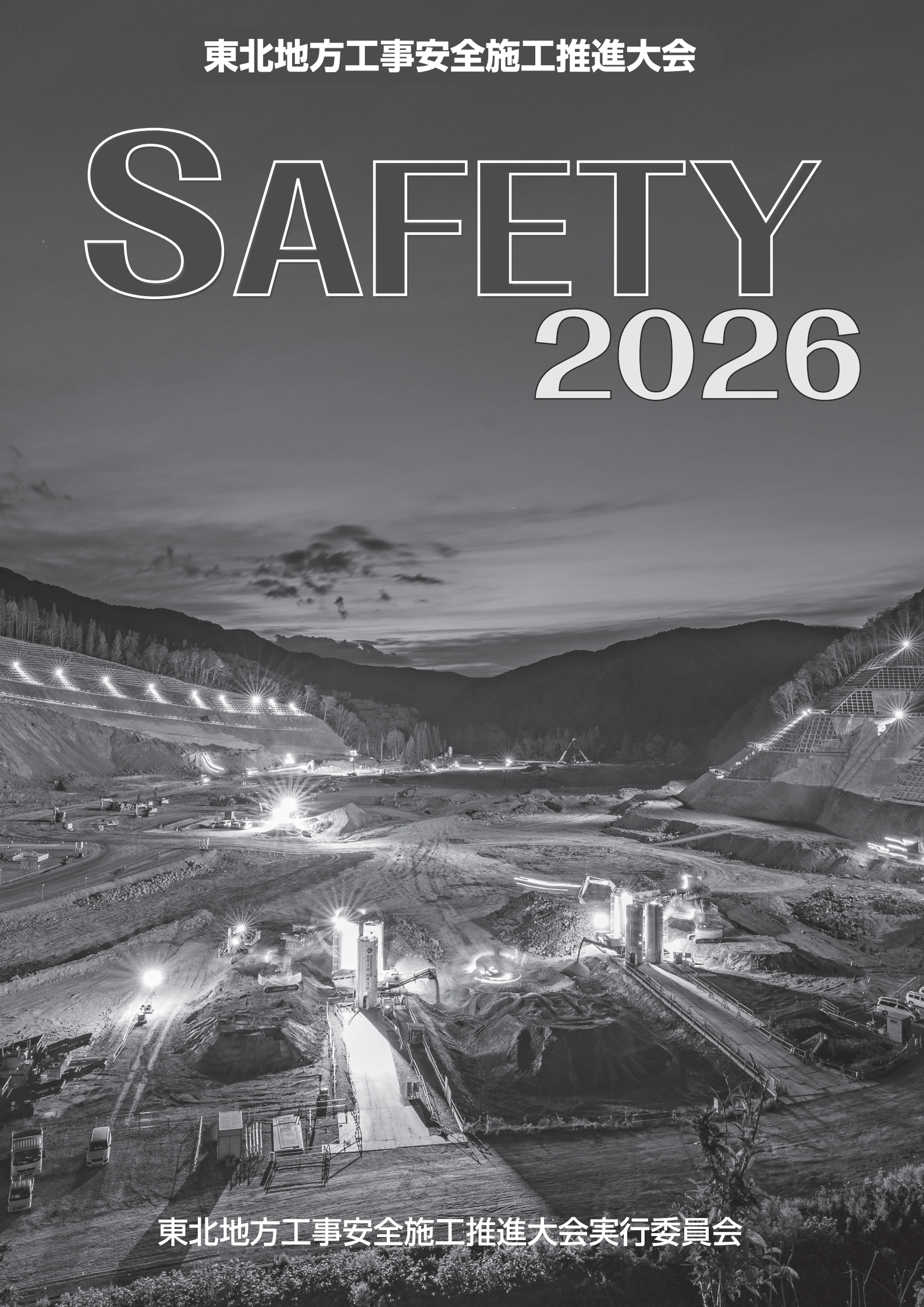
東北地方工事安全施工推進大会

SAFETY 2026



東北地方工事安全施工推進大会実行委員会

目　次

１．優良企業（現場代理人）表彰

（1）優良企業（現場代理人）表彰　一覧表 …… 4

（2）優良企業（現場代理人）表彰　安全施工のために留意、または工夫した事項 …… 7

２．安全に関する論文表彰

（1）【優秀賞】一覧表 …… 22

（2）【優秀賞】安全に関する論文 …… 23

（3）【佳作】一覧表 …… 42

※応募者一覧表は、以下東北地方整備局のHPからご確認ください
【東北地方整備局TOP】≫【施工・監督技術情報（事業者の方へ）】≫【表彰（優良工事・業務、３D、SAFETY)】
URL：http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00910/hyousyou/hyousyou_.htm

３．安全の誓い【決意表明】 …… 43

表紙写真：昼夜の施工により早期完成を目指す鳥海ダム（秋田県由利本荘市）
提供：西松建設・奥村組・フジタ特定建設工事共同企業体

優良企業（現場代理人）表彰

優良企業（現場代理人） 表彰 一覧表

東北地方整備局	青森河川国道事務所	番所橋外構造物補修工事	丸勘建設株式会社	籔内 一裕
青森県	東青県土整備事務所	夏泊公園線交付金（交通安全）工事	株式会社藤本建設	阿部 雅
青森県	三八県土整備事務所	八戸環状線橋梁整備（(仮）田端山跨道橋）工事	穂積建設工業株式会社	坂本 真
東日本高速道路株式会社	青森管理事務所	東北自動車道 湯瀬ＰＡ障がい者駐車場上屋新築工事	株式会社佐々木組	高橋 等
東北地方整備局	岩手河川国道事務所	八幡平山系うさぎ平西沢砂防堰堤（５期）工事	菱和建設株式会社	工藤 健太
東北地方整備局	岩手河川国道事務所	北大橋橋梁補修・補強工事	ショーボンド建設株式会社 盛岡営業所 ※旧北東北支店	堀川 宏喜
東北地方整備局	三陸国道事務所	宮古大橋（下り線）塗装工事	ショーボンド建設株式会社 盛岡営業所 ※旧北東北支店	佐藤 洸平
東北地方整備局	南三陸沿岸国道事務所	遠野地区法面災害復旧工事	株式会社佐藤組	宇田 勝仁
東北地方整備局	盛岡営繕事務所	二戸裁判所（24）建築その他工事	株式会社丹野組	櫻場 貴弘
岩手県	県南広域振興局土木部 花巻土木センター	一般県道石鳥谷大迫線大正橋橋梁補修工事	株式会社瀧田屋	渡邊 虹太
岩手県	県南広域振興局土木部 北上土木センター	一般国道107号大石地区道路災害復旧（橋梁上部工製作・架設）工事	株式会社中央コーポレーション	日下 徹
岩手県	県南広域振興局土木部 花巻土木センター	主要地方道盛岡和賀線轟木地区舗装補修工事	株式会社照甲組	吉田 善樹
岩手県	沿岸広域振興局土木部	大松砂防堰堤改築工事	株式会社山長建設	花坂 圭介
岩手県	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	赤前上の沢（２）筋赤前地区渓流保全工その２工事	長沢産業株式会社	杉沢 智樹
東北地方整備局	仙台河川国道事務所	古川国道防災対策工事	株式会社村田工務所	尾形 寿悦
東北地方整備局	仙台河川国道事務所	増田地区横断歩道橋撤去工事	株式会社駒井ハルテック 東北営業所	鶴田 政宏
東北地方整備局	北上川下流河川事務所	吉田川粕川地区避難道路整備（その２）工事	株式会社只野組	阿部 愉一
東北地方整備局	鳴瀬川総合開発工事事務所	鳴瀬川ダム筒砂子地区迂回路下流道路整備工事	株式会社橋本店	吉川 謙一
東北地方整備局	鳴子ダム管理所	鳴子ダム管内維持工事	株式会社遠藤店	三浦 臣吾
東北地方整備局	釜房ダム管理所	釜房ダム土砂撤去外周辺維持工事	熱海建設株式会社	渡邊 善之
東北地方整備局	営繕部	東北管区警察学校丸山宿舎（24）建築改修その他工事	サン工業株式会社	蜂谷 慎司
東北地方整備局	塩釜港湾・空港整備事務所	仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区防波堤（南）築造工事	東洋建設株式会社 東北支店	田邉 克章
宮城県	東部地方振興事務所	林道「女川北線」森林管理道整備工事	佐藤建設株式会社	今野 泰成
宮城県	仙台土木事務所	味明川築堤外工事	奥田建設株式会社	早坂 拓海

宮城県	仙台土木事務所	（市）七北田西成田線道路改良工事	株式会社深松組	佐藤　正芳
宮城県	営繕課	東北自治総合研修センター外壁改修工事	株式会社桝田組	金本　浩司
宮城県	営繕課	宮城第一高屋内運動場解体等工事	奥田建設株式会社	小野寺　智由
仙台市	建設局道路部南道路建設課	（都）南小泉茂庭線（宮沢橋工区）橋梁上部工工事	駒井ハルテック・三井住友建設鉄構エンジニアリング・角藤共同企業体	今　大介
仙台市	都市整備局公共建築住宅部設備課	仙台市シルバーセンター大規模改修機械設備工事	本山振興・北栄工業所共同企業体	鈴木　賢介
仙台市	都市整備局公共建築住宅部営繕課	仙台市立長命ケ丘中学校校舎等長寿命化改修工事	巧成建設株式会社	永嶋　拓真
仙台市	建設局下水道建設部管路建設課	長袋地区公共下水道接続工事１	サイト工業株式会社	高橋　誠
仙台市	宮城総合支所建設部道路課	（市）高畑定義線（定義工区）橋梁下部工工事（その２）	奥田建設株式会社	三國　哲
東日本高速道路株式会社	仙台管理事務所	山形自動車道 星野城トンネル照明設備更新工事	東北電化工業株式会社	鈴木　陽平
東北地方整備局	秋田河川国道事務所	西中野沢地区舗装工事	鹿島道路株式会社　東北支店	加賀屋　翔太
東北地方整備局	湯沢河川国道事務所	横堀地区標識工事	伊藤建設工業株式会社	藤谷　恭平
東北地方整備局	能代河川国道事務所	今泉地区外舗装工事	日本道路株式会社　東北支店	原子　陽貴
東北地方整備局	成瀬ダム工事事務所	成瀬ダム庁舎電気設備工事	伊藤電気株式会社	松田　重美
東北地方整備局	鳥海ダム工事事務所	鳥海ダム市道付替手代線後山工事用道路工事	三共株式会社	渡辺　英樹
秋田県	北秋田地域振興局建設部	地方道路交付金工事（改築）06-HF55-30	秋田土建株式会社	小林　勇輝
秋田県	平鹿地域振興局建設部	地方道路交付金工事（広域連携改築）06-KR17-20	有限会社阿部組	髙山　利和
秋田県	雄勝地域振興局建設部	道路メンテナンス工事（橋梁補修）06-FI58-30	株式会社小野建設	宇戸　睦
秋田県	北秋田地域振興局農林部	黒滝大森線２工区 森林資源循環利用林道整備工事 RB1204A552	株式会社佐藤庫組	武石　祥徳
秋田県	由利地域振興局農林部	下屋敷地区 災害関連緊急治山工事 RE1124A011	株式会社三浦組	熊谷　雅也
東北地方整備局	山形河川国道事務所	最上川上流大久保第二遊水地上流地区築堤外工事	株式会社柿崎工務所	渡辺　勝
東北地方整備局	山形河川国道事務所	飯豊地区歩道改良工事	小国開発株式会社	渡部　崇
東北地方整備局	山形河川国道事務所	毒沢地区道路災害復旧工事	升川建設株式会社	三井寺　孝規
東北地方整備局	新庄河川事務所	鮭川流域布引沢砂防堰堤整備ほか工事	星川建設株式会社	五十嵐　圭司
東北地方整備局	酒田河川国道事務所	最上川下流榎木下流地区河川災害復旧工事	林建設工業株式会社	佐藤　嵩明
東北地方整備局	最上川ダム統合管理事務所	寒河江ダム管内維持工事	株式会社石橋組	志田　隆之

山形県	置賜総合支庁建設部道路計画課	令和6年度（債務負担行為）河川等災害復旧事業（前々年災）4年災第9501号一般国道121号道路災害復旧工事（第3工区）	置賜建設株式会社	秋生　直之
山形県	最上総合支庁建設部河川砂防課	令和５年度（明許繰越）土砂災害対策事業（防災安全・地すべり（国補正））塩地すべり対策工事	沼田建設株式会社	梁田　康延
山形県	置賜総合支庁建設部道路計画課	令和６年度道路施設長寿命化対策事業（補助・橋梁修繕）一般県道米沢浅川高畠線 新田橋橋梁補修工事	株式会社三和	熊谷　伸二
山形県	最上総合支庁産業経済部農村整備課	令和６年度大向上野地区水田農業低コスト等基盤整備事業第１工区工事	矢口興業株式会社	石山　裕次
山形県	港湾事務所	令和６年度（繰越）地方港湾整備事業費（港整備交付金）加茂港外１港浜町岸壁（-4.5m）外浚渫工事	株式会社みなと	佐藤　友哉
東日本高速道路株式会社	山形管理事務所	東北中央自動車道 大谷地地区附帯工工事	大和建設運輸株式会社	齋藤　清孝
東北地方整備局	福島河川国道事務所	国見地区改良舗装工事	前田道路株式会社　東北支店	安彦　大樹
東北地方整備局	郡山国道事務所	一箕町地区道路照明灯設置工事	株式会社会津電気工事	目黒　俊市
東北地方整備局	磐城国道事務所	長塚地区道路改良工事	田中建設株式会社	久坂　景行
福島県	県北建設事務所	県営住宅改善工事（外断熱）	株式会社郡山塗装　福島支店	高橋　佑季
福島県	県北建設事務所	街路（交付（街路））工事（改良舗装）	広成建設株式会社	大橋　知己
福島県	土木部営繕課	福島県郡山合同庁舎整備（電気）工事	高柳電設工業株式会社	金澤　唯
福島県	県中建設事務所	道路橋りょう整備（再復）工事（改良舗装）	三和工業株式会社	近内　隆政
福島県	南会津建設事務所	道路橋りょう維持（補助）工事（橋梁補修）	株式会社新井組	深津　修二郎
福島県	相双建設事務所	道路橋りょう整備（補助）工事（電線共同溝）	石川建設工業株式会社	青田　真克
東日本高速道路株式会社	いわき工事事務所	東北支社 いわき工事事務所解体工事	株式会社小野中村	三浦　拓実

安全施工のために留意、または工夫した事項

発注機関	東北地方整備局　青森河川国道事務所		
工事名	番所橋外構造物補修工事		
請負会社名	丸勘建設株式会社	現場代理人	籔内　一裕

安全施工のために留意、または工夫した事項

当現場の橋梁吊り足場内は板張り防護された朝顔設置により密閉された薄暗い空間となるため、視認性低下による事故の発生や夏場の熱中症発生が懸念された。そのため、足場内にチューブ式ＬＥＤライトを設置し広範囲を明るく照らすことで、危険箇所及び施工対象物の視認性を向上させた。また、送風機を設置し外気を足場内に送り込んで熱のこもりを防ぎ熱中症予防するなど、作業環境の改善に取り組んだことで安全に作業をすすめる事ができた。

発注機関	青森県　東青県土整備事務所		
工事名	夏泊公園線交付金（交通安全）工事		
請負会社名	株式会社藤本建設	現場代理人	阿部　雅

安全施工のために留意、または工夫した事項

切土作業においては、重機モニターとクラウドにより積荷を二重確認することで、過積載の防止に努めました。ダンプトラック運転手には、運搬路に狭隘箇所や見通しの悪い箇所が多いことから、交通ルールの遵守と一般車両優先の安全運転を遵守させました。また、県の合同パトロールでの指摘・指導を踏まえ、より良い作業環境の確保と無事故での竣工を目標に安全管理を進めてきました。大雨による土砂災害発生時にも、監督員の指示のもと適切な対策を臨機に講じることで、無事故で竣工することができました。

発注機関	青森県　三八県土整備事務所		
工事名	八戸環状線橋梁整備（(仮）田端山跨道橋）工事		
請負会社名	穂積建設工業株式会社	現場代理人	坂本　真

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事は、市道の通行止めを伴う主桁の架設工事が主な内容であり、一般交通や周辺環境への影響が大きいことから、地域住民、関係機関および近隣企業との綿密な連携・調整を行い、工事への理解と協力を得ながら施工を進めました。また、高所・クレーン作業においてはＢＩＭ/ＣＩＭを活用した３Ｄモデルによる事前周知を実施し、作業手順や危険箇所を全作業員で共有・徹底するとともに、熱中症対策などの安全管理を確実に実施した結果、無事故・無災害で工事を終えることができました。

発注機関	東日本高速道路株式会社　青森管理事務所		
工事名	東北自動車道　湯瀬ＰＡ障がい者駐車場上屋新築工事		
請負会社名	株式会社佐々木組	現場代理人	高橋　等

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事における施工条件としてパーキングエリア内を使用（既存トイレ利用等）しての施工になるため、特に第三者災害の防止に重点を置き、利用者目線での動線の安全確保・工事エリアの明確な区画をして立ち入り禁止処置を行った。また工事場所が他業者（土木工事）との融合工事でもあり作業間での密な打合せを行い、搬入等のラップ作業などが起きないように留意し、懸念点があった場合は速やかに監督員に相談して対応いただいた事により無事故・無災害での工事を完工することができた。

発注機関	東北地方整備局　岩手河川国道事務所		
工事名	八幡平山系うさぎ平西沢砂防堰堤（５期）工事		
請負会社名	菱和建設株式会社	現場代理人	工藤　健太

安全施工のために留意、または工夫した事項

当現場は標高約750mに位置し、積雪が２mを超える豪雪地帯である。主要材料の工場制作に約３ヵ月を要することや、ソイルセメント打設量6,544m^{3}と膨大なことから、冬期施工になることが予想され、冬期は危険リスクが大幅に増加することが懸念されたが、一般的な施工方法ではなく、ソイルセメントを超ロングバックホウで、堰堤外側から投入する方法により、各作業範囲を分割し、型枠と打設を同時施工する工夫を行った。これにより安全性と生産性が大幅に向上し、最大の危険リスクである冬期施工を回避し、無事故で完成した。

発注機関	東北地方整備局　岩手河川国道事務所		
工事名	北大橋橋梁補修・補強工事		
請負会社名	ショーボンド建設株式会社　盛岡営業所　※旧北東北支店	現場代理人	堀川　宏喜
安全施工のために留意、または工夫した事項			
現場周辺は商業施設が隣接し、第三者の往来が集中する工区である。 施工期間は、夏季～冬季に跨るため、現場の環境に応じた安全対策を総合的に実施した。 対策①・・・可動制限付きユニック、クルクルキャッチ、水系塗膜剥離剤の使用 対策②・・・腕時計型の熱中症バンド、クーレット（送気装置)、スポットクーラーの使用			

発注機関	東北地方整備局　三陸国道事務所		
工事名	宮古大橋（下り線）塗装工事		
請負会社名	ショーボンド建設株式会社　盛岡営業所　※旧北東北支店	現場代理人	佐藤　洸平
安全施工のために留意、または工夫した事項			
今回工事において安全施工のために特に留意した点は、以下の２点である。１点目は河川上での足場設置作業における墜落防止対策である。パネルのエッジに接触してもワイヤーが切れにくく、移動方向の制約が少ない「万能クルクルキャッチ」を使用して墜落・転落防止対策を実施した。２点目は夏季の施工中の熱中症対策である。「黒球付きマルチ熱中症計」を設置し気温とWBGT値を常に確認できる状態にしたほか、熱中症対策の飲料や応急処置キットを現場休憩所に常備した。			

発注機関	東北地方整備局　南三陸沿岸国道事務所		
工事名	遠野地区法面災害復旧工事		
請負会社名	株式会社佐藤組	現場代理人	宇田　勝仁
安全施工のために留意、または工夫した事項			
【規制関係】①誘導員の人身事故防止のため、誘導人形の配置他、規制手前に電光掲示板、オカリングを設置した。②下り線走行する一般車に対して、注意喚起の為に誘導員を配置した。 【施工関係】①法面からの飛散防止の為、２重の防護ネットを設置した。②アンカー撤去掘削時に、土砂崩壊防止の為、仮吹付モルタルを施工した。③防爆シートを使用し、アンカー撤去・定着時の飛散防止を行った。④プラントからの飛散防止の為、防塵シート・風よけネットを設置した。			

発注機関	東北地方整備局　盛岡営繕事務所		
工事名	二戸裁判所（24）建築その他工事		
請負会社名	株式会社丹野組	現場代理人	櫻場　貴弘
安全施工のために留意、または工夫した事項			
1，墜落、転落災害の防止：階高が１階4.6m、２階４mと高く、躯体、内装工事共に墜落事故防止に重点を置いた。躯体工事時は、支保工足場を設置予定であったが、監督員の了承を頂き計画変更を行った。１階スラブ型枠を梁枠スラブとした。高所作業時はローリング足場、高所作業車の使用を基本とした。内装工事は立ち馬と高所作業車の使用を基本とし脚立の単独使用は禁止とした。 2，交通事故の防止：現場は官庁施設が多く、車、歩行者共往来が多かったため交通誘導を重点的に行った。			

発注機関	岩手県　県南広域振興局土木部花巻土木センター		
工事名	一般県道石鳥谷大迫線大正橋橋梁補修工事		
請負会社名	株式会社瀧田屋	現場代理人	渡邊　虹太
安全施工のために留意、または工夫した事項			
ブラスト施工に伴う鉛含有塗膜の飛散・流出および有害物質による作業員へのばく露防止に留意し、杉板をはめ込んで隙間のない構造とできるGS足場を採用したことによりフラットで安全な作業床を確保した。また、朝顔部をコンパネとクイックラップを併用し密閉する養生方法を採用し、粉塵や鉛含有塗膜の飛散・流出を効果的に防止した。さらに、足場内を施工区画ごとに仕切ってブラスト作業を行うことで、負圧集塵機の集塵効率を向上させ、足場内の粉塵発生を抑制し、作業員の有害物質へのばく露防止と周辺環境の保全、安全な施工を実現した。			

発注機関	岩手県　県南広域振興局土木部北上土木センター		
工事名	一般国道107号大石地区道路災害復旧（橋梁上部工製作・架設）工事		
請負会社名	株式会社中央コーポレーション	現場代理人	日下　徹

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事はダムにかかる橋梁のため、特にダム湖内への油流出防止、渇水期のベント工における高所作業時の安全に留意して施工を行った。橋梁に隣接する仮設構台が、架設クレーン設置、搬出入スペースとあわせて、全体工程上、工事車両が通過する工事用道路としても使用されることから、他工事との綿密な工程調整が必要であった。また吊足場上を橋梁添架物設置工事で使用することから、前倒し施工が求められたため、吊足場上に搬出ステージを複数設置することにより、安全な作業の実施とともに工程も短縮することができた。

発注機関	岩手県　県南広域振興局土木部花巻土木センター		
工事名	主要地方道盛岡和賀線轟木地区舗装補修工事		
請負会社名	株式会社照甲組	現場代理人	吉田　善樹

安全施工のために留意、または工夫した事項

施工区間には道の駅、コンビニエンスストア、ガソリンスタンドが隣接し、利用者の出入りが多い状況であった。このため、安全確保と接触事故防止を最優先として施工方法を検討した結果、混雑による事故の危険性が高い昼間施工から、夜間施工に変更することで安全の確保と商業施設への影響の軽減に努めた。夜間施工では視認性低下に対応するため障害物センサー付き重機の使用、各施設の出入り口を切り替えて案配看板や誘導員を配置して利用者の動線を整理した。また、地域住民及び各商業施設への事前周知を行ったことで苦情や事故もなく完了した。

発注機関	岩手県　沿岸広域振興局土木部		
工事名	大松砂防堰堤改築工事		
請負会社名	株式会社山長建設	現場代理人	花坂　圭介

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事は、現場作業員の体調管理に留意し、熱中症対策として空調服を配布や、日々の管理として、自己チェックシートを作成し、現場作業員全体の対話による体調の確認を行った。また、試掘後の発注者との協議による事故防止に向けた再設計や、墜落災害防止に向けたＶＲ事故体験安全教育等を実施し、本工事を無事故で完成に導いた。

発注機関	岩手県　沿岸広域振興局土木部宮古土木センター		
工事名	赤前上の沢（２）筋赤前地区渓流保全工その２工事		
請負会社名	長沢産業株式会社	現場代理人	杉沢　智樹

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事は、住宅地の幅員狭小部をとおり土砂の運搬などを行うため、ISO45001（労働安全衛生マネジメント）に基づき、工事着手前に危険源を特定し、チラシによる地域住民への案内や、カーブミラーの設置、交通安全機材を用いた体験型講習会を行った。また、熱中症から作業員の健康と安全を守るため、従来の安全対策に加え、現場内にWBGT温度計の設置、黒玉式熱中症指数計の携帯による日常管理など新たな取り組みを行った。

発注機関	東北地方整備局　仙台河川国道事務所		
工事名	古川国道防災対策工事		
請負会社名	株式会社村田工務所	現場代理人	尾形　寿悦

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事は一般国道４号の切土法面崩落箇所の修繕（多段積かごマット）が主要工種であった。当初設計では24時間の片側交互通行規制で143日の施工日数で施工する計画であったが、通勤時間帯の渋滞及び交通災害発生のリスクがあることから、施工方法の見直し（かごマットの制作を別ヤードで行い、現地作業は作業土工と設置のみ）を行い、昼間のみの片側交互交通規制での施工が可能となった。結果、交通規制日数を昼間の40日（当初比▲72.0％）に大幅短縮でき、交通災害防止に努めた。

発注機関	東北地方整備局　仙台河川国道事務所		
工事名	増田地区横断歩道橋撤去工事		
請負会社名	株式会社駒井ハルテック　東北営業所	現場代理人	鶴田　政宏
安全施工のために留意、または工夫した事項			
安全施工のために以下の３点に留意した。横断歩道橋撤去部材の安定した状態での撤去作業。片側交互規制起点部における交通事故。撤去部材の不測の重量増にも対応可能な楊重計画の策定。 安全面における工夫として以下の３点を実施した。交差点部の視認性低下に対し、連動型ソーラーLEDライト「アイコレクト」の設置。仮設構造物の安定監視として、無線式傾斜監視システム「チルフォメーション」の活用。通行止め予告の「広報用横断幕」「桁下高さ表示板」の設置。			
発注機関	東北地方整備局　北上川下流河川事務所		
工事名	吉田川粕川地区避難道路整備（その２）工事		
請負会社名	株式会社只野組	現場代理人	阿部　愉一
安全施工のために留意、または工夫した事項			
工事現場の安全対策はもちろんのこと、地域住民の方々への安全も常に意識して安全対策に取り組みました。騒音・振動計を設置して騒音振動の発生要因を取り除くよう努め、またデジタルサイネージを使用して近隣住民の皆様方へ工事内容の周知と注意喚起を行い地域の安全と信頼の向上に努めました。			
発注機関	東北地方整備局　鳴瀬川総合開発工事事務所		
工事名	鳴瀬川ダム筒砂子地区迂回路下流道路整備工事		
請負会社名	株式会社橋本店	現場代理人	吉川　謙一
安全施工のために留意、または工夫した事項			
国道347号線に近接した工事となる為、第三者災害と重機に起因した災害の防止を心掛けた。第三者災害防止としてAI搭載型のドライブレコーダーを使用し、運転手の危険運転防止とクラウドに保存した運転記録の周知により安全運転意識向上を図った。また、視認性の高い規制車や侵入車両停止装置の「とまるくん」を使用し、重大事故を予防した。作業員へはVR技術やダミー人形、外部講師による安全教育を実施し、安全教育のマンネリ化を防止した。この取り組みを実施した事により、無事故・無災害にて工事の竣工を迎えられた。			
発注機関	東北地方整備局　鳴子ダム管理所		
工事名	鳴子ダム管内維持工事		
請負会社名	株式会社遠藤店	現場代理人	三浦　臣吾
安全施工のために留意、または工夫した事項			
船上作業におけるライフジャケット及び通気孔付きヘルメットの採用、熊鈴・熊スプレーの配備並びにクマ目撃情報マップの活用など、ダム湖及び山間部特有の危険要因に応じた安全対策を実施した。また、飛散防止ネットや立入禁止措置により第三者災害防止を徹底し、無事故・無災害で工事を完成させることができた。			
発注機関	東北地方整備局　釜房ダム管理所		
工事名	釜房ダム土砂撤去外周辺維持工事		
請負会社名	熱海建設株式会社	現場代理人	渡邊　善之
安全施工のために留意、または工夫した事項			
維持作業が主となる夏季期間の熱中症対策として、気象観測データ及び作業従事者個々の心拍や体温等のデータをPC等で確認できるクラウド型一括管理システム『Guard　NAVI』を活用した。このシステムを活用することで作業従事者の体調の見える化を図った。土砂運搬作業においては、AI搭載の建設現場車両入退場管理システム『GENBA-Tracer』を導入し入退場する車両の安全管理に活用した。また、位置情報アプリと連動させ運搬車両の位置情報をPC等で確認し安全運転の見える化を図った。以上により、無事故無災害で竣工する事ができた。			

発注機関	東北地方整備局　営繕部		
工事名	東北管区警察学校丸山宿舎（24）建築改修その他工事		
請負会社名	サン工業株式会社	現場代理人	蜂谷　慎司

安全施工のために留意、または工夫した事項

・毎週の遠隔臨場による安全パトロールを実施し、第三者目線で現場を確認。不安全箇所の是正を徹底した。
・狭小な階段室を避け高所作業車を揚重に活用。人力運搬を削減し、階段での転倒のリスク、壁面等への衝突事故・キズを未然に防止した。
・作業車両事故防止の安全管理を徹底。作業範囲にバリケード配置、重機稼働時には安全監視者を配置し、車両同士、作業員との　衝突災害を防止した。

発注機関	東北地方整備局　塩釜港湾・空港整備事務所		
工事名	仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区防波堤（南）築造工事		
請負会社名	東洋建設株式会社　東北支店	現場代理人	田邉　克章

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事の防波堤築造は海中の潜水作業が多く、減圧症や吊荷との接触災害等の潜水災害に対する安全対策が重要であった。また、工事のメインとなるケーソン据付では複数の作業船と多くの作業員が海上作業に従事するため、作業手順・役割分担の共有と危険個所の認識が必要とされ、加えて熱中症への対策も必要であった。
上記の課題に対し、減圧時間管理システムと吊荷制御・遠隔切離装置により潜水災害を防止し、BIM/CIMモデルを用いた手順・役割分担の明確化や作業場所に応じた環境整備を行ったことで熱中症のリスクを低減した。

発注機関	宮城県　東部地方振興事務所		
工事名	林道「女川北線」森林管理道整備工事		
請負会社名	佐藤建設株式会社	現場代理人	今野　泰成

安全施工のために留意、または工夫した事項

1．本工事は急峻な地形での作業となり、作業スペースを十分に確保できない箇所があった。接触事故を防止するために、ICT建設機械や接近警報システムを搭載した重機を導入し、重機と作業員との接触事故が起きない距離を確保することに留意した。
2．自然災害による事故防止のため、現地踏査時点で水害を受けた跡や崩落が予想される危険箇所を洗い出し、工事関係者に周知を行った。又、工事の進捗に合わせて上記と同様に行い、自然災害防止に留意した。

発注機関	宮城県　仙台土木事務所		
工事名	味明川築堤外工事		
請負会社名	奥田建設株式会社	現場代理人	早坂　拓海

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事では築堤盛土材及び残土の運搬作業があり、現場から離れた土砂置場との間を多くのダンプトラックが往来することから、運搬経路の逸脱や交通事故の危険性があった。そのため、当日走行するダンプ運転手全員に対して、走行ルートや現場の特性、注意点等を誰が見ても分かりやすくまとめた資料を配付し、安全教育を実施することで、安全な運行を実施することができた。

発注機関	宮城県　仙台土木事務所		
工事名	（市）七北田西成田線道路改良工事		
請負会社名	株式会社深松組	現場代理人	佐藤　正芳

安全施工のために留意、または工夫した事項

現場は起点側に閑静な住宅地が広がり、終点側は供用中の高速道路に面した切土掘削を伴う道路改良工事であった。住宅地に接する箇所には、防音シートを設置して粉塵・騒音対策を実施。高速道路沿いには、大型土嚢を事前に設けて土砂流出防止に努めた。工事の周知として、周辺町内会に毎月『工事かわら版』を発行し、工程進捗やダンプトラックの繁忙期について周知した。さらに、近接住民には個別訪問により騒音・振動・粉塵対策を丁寧に説明し、無事故無災害で工事を完了した。

発注機関	宮城県　営繕課		
工事名	東北自治総合研修センター外壁改修工事		
請負会社名	株式会社桝田組	現場代理人	金本　浩司

安全施工のために留意、または工夫した事項

不特定多数の方が居ながらの工事で、第三者の安全確保を優先的に検討するため危険なポイントがどこにあるかを施設管理者と密に打合せを行い、事前に良く現場の状況を観察することで見えてくるものがありました。動線が混雑する場所やその時間帯、施設利用者だけでなく、配達等で訪れる方等にも分かりやすく伝えるために看板や表示板等を多用し、それでも伝えられない場合は誘導員を配置する等を事前に計画に盛り込み実施しました。また、作業員の安全確保のため墜落転落、物の落下、クレーン作業等特に危険を伴う工事においては全てを口頭では伝えきれないのでルール看板等を見やすい場所に掲示して見える化を図った。

発注機関	宮城県　営繕課		
工事名	宮城第一高屋内運動場解体等工事		
請負会社名	奥田建設株式会社	現場代理人	小野寺　智由

安全施工のために留意、または工夫した事項

① 既設校舎（生徒・学校関係者）と近隣住民へ配慮した仮設計画並びに安全対策。
② 近隣（住民・保育園・中学校・高等学校）も含めた通勤通学時間帯における交通事故防止。
③ 徹底した事前調査でライフラインの保護や有害物質の飛散防止を図った。
④ 解体撤去工事における騒音・振動・粉じん対策並びに墜転落事故防止やライフラインの損傷事故防止。

発注機関	仙台市　建設局道路部南道路建設課		
工事名	（都）南小泉茂庭線（宮沢橋工区）橋梁上部工工事		
請負会社名	駒井ハルテック・三井住友建設鉄構エンジニアリング・角藤共同企業体	現場代理人	今　大介

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事は都市部での上部工工事であることから第三者災害防止対策として、通勤・通学時間帯の大型車両の出入りを制限する他、ヤード出入口には交通誘導員を配置したうえでレーザーセンサーと連動したLED表示機の配置により交通事故防止を図った。また、架設工法は送出し工法ということもあり、倒壊災害防止対策としてさまざまな仮設備を計画し、軌条設備の転倒防止対策・桁降下時のフェールセーフ・送出し架設時の逸走防止対策等を工夫した。送出し架設は反力管理一元化システムを導入し反力バランスを確認・調整しながら安全に進めた。

発注機関	仙台市　都市整備局公共建築住宅部設備課		
工事名	仙台市シルバーセンター大規模改修機械設備工事		
請負会社名	本山振興・北栄工業所共同企業体	現場代理人	鈴木　賢介

安全施工のために留意、または工夫した事項

各工事（建築、電気設備、エレベーター設備、機械設備）が別途発注の作業所であったため、各業者間の作業調整と全体を統括した安全管理、現場構成員の安全意識の向上に留意した。具体的にはＩＣＴ技術を導入して業者間の意思疎通と情報共有を重視するとともに、その情報が正確に伝わるようデジタルサイネージの活用による情報の「見える化」を推進した。さらにダイバーシティに配慮した環境整備を行い、「誰もが働きやすい作業環境が最も安全な作業所である」という安全文化の醸成に努めた。

発注機関	仙台市　都市整備局公共建築住宅部営繕課		
工事名	仙台市立長命ケ丘中学校校舎等長寿命化改修工事		
請負会社名	巧成建設株式会社	現場代理人	永嶋　拓真

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事は、居ながらの作業となるため先生・生徒・来訪者に特に配慮する必要がありました。そのため定期的に教頭先生・事務長と工事の打合せを行い、改修工事に伴う先生・生徒・来訪者の動線の確保するために作業区画を行う範囲、作業内容、施工時期等を明確に説明し、第三者の安全確保に努めました。また、考査や学校行事などで工事作業音が影響してしまう場合は、作業音の規制日・規制時間を設けて、生徒の大事な考査、学校行事などに影響がないように努めました。

発注機関	仙台市　建設局下水道建設部管路建設課		
工事名	長袋地区公共下水道接続工事１		
請負会社名	サイト工業株式会社	現場代理人	高橋　誠
安全施工のために留意、または工夫した事項			
道路上作業の第三者（通行車両）との接触事故防止に留意 ・交通誘導員の警笛による第三者や作業者への注意喚起 ・進入車両強制停止装置の配備			

発注機関	仙台市　宮城総合支所建設部道路課		
工事名	（市）高畑定義線（定義工区）橋梁下部工工事（その２）		
請負会社名	奥田建設株式会社	現場代理人	三國　哲
安全施工のために留意、または工夫した事項			
観光地に近接し複数工事が同時施工される現場であったため、第三者災害防止を最優先とし、発破作業時の飛石養生、交通誘導員の配置、近隣への事前周知、搬出入車両の運行調整を徹底した。また、クレーンブーム先端カメラと無線機を活用した死角対策、安全吊荷荷重計算表による作業計画、WBGT値を活用した熱中症対策、高所作業でのフルハーネス着用範囲の見える化、熊対策を実施し、工事期間を通じて無事故・無災害で完成させた。			

発注機関	東日本高速道路株式会社　仙台管理事務所		
工事名	山形自動車道　星野城トンネル照明設備更新工事		
請負会社名	東北電化工業株式会社	現場代理人	鈴木　陽平
安全施工のために留意、または工夫した事項			
供用中の本線トンネル及びSA・PAのランプ・駐車場・園地部での工事であった事から、本線車線規制や作業区画には特に注意するとともに、利用者への注意喚起を徹底し、第三者災害・交通災害の防止に努めた。またほとんどが屋外での作業であったため、朝礼時に体調チェックシートを活用し、作業員の体調管理を行い、熱中症リスクの低減を図った。各作業毎に作業員とリスクアセスメントを実施し現場全体の安全意識向上を図った。隣接する他工事もあったが、業者間で打合せ・工程の調整を行い、安全な現場運営を心掛けた。			

発注機関	東北地方整備局　秋田河川国道事務所		
工事名	西中野沢地区舗装工事		
請負会社名	鹿島道路株式会社　東北支店	現場代理人	加賀屋　翔太
安全施工のために留意、または工夫した事項			
舗装工事が７本発注となり、最初に着手となった現場であった。当社が主導となって事業全体工程を考慮し、当工区内にある現場出入口を隣接工区にも使用許可することで、他工事の工程進捗促進に寄与した。また、当年度から熱中症対策が義務化され、本工事も炎天下の中の施工もあったが、スポーツドリンクの格安化、塩分補給アイテムの支給および強制補給、エアコン搭載の車載休憩所の設置など充実した対策により熱中症の発生無く工事を完成することが出来た。			

発注機関	東北地方整備局　湯沢河川国道事務所		
工事名	横堀地区標識工事		
請負会社名	伊藤建設工業株式会社	現場代理人	藤谷　恭平
安全施工のために留意、または工夫した事項			
本工事では他工事と作業範囲が重複しており、他業者の施工している中でこちらも作業することが多くあった。その為、複数の他工事との段取りの打合せを行い、施工日に作業範囲が被らないように作業の確認・すり合わせを行った。また、作業場所への運行経路・日時を図面に記入したものを他業者にメール等で通知を送り、経路の確認・確保を行い、お互いスムーズに作業を進められるようにした。			

発注機関	東北地方整備局　能代河川国道事務所		
工事名	今泉地区外舗装工事		
請負会社名	日本道路株式会社　東北支店	現場代理人	原子　陽貴

安全施工のために留意、または工夫した事項

当工事では重機接触撲滅を最重点課題とし、バックホウやローラーへ自動停止装置を導入。VR安全教育「ルッカ」による災害疑似体験で作業員の危険感受性を劇的に高めた。また、切回し道路へLEDシングルサインを戦略配置し、夜間・悪天候時の第三者災害を徹底防止。気象管理面では「ソラテナPro」を駆使し、リアルタイム数値に基づく先手の作業中断判断を徹底した。これら先進技術の融合と社内外パトロールによる不安全状態の即時是正を全工期で貫徹。労働災害・公衆災害の「完全ゼロ」を達成し、揺るぎない安全性を確立した。

発注機関	東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所		
工事名	成瀬ダム庁舎電気設備工事		
請負会社名	伊藤電気株式会社	現場代理人	松田　重美

安全施工のために留意、または工夫した事項

当工事は、ダム堤体工事に隣接して庁舎を建設する工事です。作業エリアが限定されていたので現場への入場時、資材の搬入時に重機との接触事故がないように関連工事との連絡調整を密にし、ルールを徹底しました。

また、庁舎内部工事では地下ピットの工事が多くあり、酸欠事故が懸念された。対策として酸素濃度計測に加えて、作業員に携帯型酸素濃度計を持ち歩くよう指示し、事故防止に努めました。試験時の送電が他工事のため電線の接続や切断時に感電事故を防ぐために、作業員に検電器を持たせて対策を講じました。

発注機関	東北地方整備局　鳥海ダム工事事務所		
工事名	鳥海ダム市道付替手代線後山工事用道路工事		
請負会社名	三共株式会社	現場代理人	渡辺　英樹

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事の施工にあたり着手前に危険箇所を洗い出し「ハザードマップ」を作成し関係者へ周知した。盛土施工箇所の一部は市道と隣接しており、落石による通行車両との激突防止のため「落石防止柵・のぼり旗による注意喚起」で対策した。近年の熱中症発症対策として「冷房完備ソーラーハウス・スポットクーラー完備テント」等で発症を防止した。公衆物損災害対策やDXを活用した安全訓練、監視カメラによる不安全行動の抑制、工事事故防止徹底とゼロ災を目指しグループ会社・女性社員パトロールを実施し指摘改善を行い無事故で完成させた。

発注機関	秋田県　北秋田地域振興局建設部		
工事名	地方道路交付金工事（改築）　06-HF55-30		
請負会社名	秋田土建株式会社	現場代理人	小林　勇輝

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事は国道改築工事であり、2箇所の現道接続を行う工事であった。また集落や駅があり、工事車両と第三者が錯綜しないよう、誘導員の配置や、う回路の計画を行った。また舗設作業が7月からと大変暑い時期の作業であったが、作業時間の変更や、空調服の配布などを行い、熱中症災害を防止した。現道工事では狭隘な箇所もあったが、AI交通誘導を含め、交通規制の工夫などを行いながら、第三者災害もなく安全に作業ができた。

隣接する工区との調整を綿密に行いながら工事を進め、無事に工期内無事故無災害で完成することができた。

発注機関	秋田県　平鹿地域振興局建設部		
工事名	地方道路交付金工事（広域連携改築）06-KR17-20		
請負会社名	有限会社阿部組	現場代理人	髙山　利和

安全施工のために留意、または工夫した事項

工事着手前に工事説明会や住民への個別訪問を実施し、地域住民の協力を得ながら施工を進めた。また、人検知衝突軽減システムを搭載したバックホウの使用と、KY活動・１人KYの徹底により、重機との接触災害防止と安全意識の向上に努めた。さらに、排水構造物にはプレキャスト製品を採用し、現場打設や養生作業を削減するとともに、ワンサイクル施工とすることで安全性を高めた。加えて、冬季は気象状況に応じた工程管理を行い、視界不良時は作業を中断して安全教育を実施するなど、安全な施工環境を維持しながら工事を完了した。

発注機関	秋田県　雄勝地域振興局建設部		
工事名	道路メンテナンス工事（橋梁補修）06-FI58-30		
請負会社名	株式会社小野建設	現場代理人	宇戸　睦
安全施工のために留意、または工夫した事項			
当該工事の高所作業における墜落や重量物挟まれリスクを低減するため、通常一列の足場を二列に拡幅し十分な作業スペースを確保した。足場には先行手すりが標準装備の「NDsystemダーウィン」を全面採用や、電動ウインチ導入による重量物引き込み作業の省力化を実施。社内安全パトロールでは、女性職員も参加し多角的な視点での職場環境改善を徹底した。これらの取組により、全工程を通じて無事故・無災害を達成した。			

発注機関	秋田県　北秋田地域振興局農林部		
工事名	黒滝大森線２工区　森林資源循環利用林道整備工事　RB1204A552		
請負会社名	株式会社佐藤庫組	現場代理人	武石　祥徳
安全施工のために留意、または工夫した事項			
本工事は林業専用道開設であり、施工起点までの既設林道5.5kmは路盤洗掘や倒木等があったが、道路管理者と協議の上で適宜補修し、日常的に安定した通勤・運搬ルートを確保して交通災害と車両トラブルを防いだ。また、夏季の熱中症予防（アラート計・空調ベスト）や、山林特有の害獣虫対策（熊スプレー・蜂捕獲器）を行い、さらに計画的な安全教育や巡視・過積載防止等の車両管理、他工事との運行調整を緊密に行うなど、安全管理を徹底した。その結果、期間中の無事故・無災害で工事を完成させることができた。			

発注機関	秋田県　由利地域振興局農林部		
工事名	下屋敷地区　災害関連緊急治山工事　RE1124A011		
請負会社名	株式会社三浦組	現場代理人	熊谷　雅也
安全施工のために留意、または工夫した事項			
本工事は堰堤の嵩上げ工事であり、既設谷止工のコンクリート面を広範囲にチッピングする必要があった。 人力での作業も考えたが、高所な足場が必要となり作業スペースも狭く、作業員に対する負担も大きいと判断した。 そこで、バックホウアタッチメント式切削機を導入しコンクリートをチッピングした。 結果として、墜落・転落の心配もなく作業員に対する負担軽減にもつながり、安全に施工できた。			

発注機関	東北地方整備局　山形河川国道事務所		
工事名	最上川上流大久保第二遊水地上流地区築堤外工事		
請負会社名	株式会社柿崎工務所	現場代理人	渡辺　勝
安全施工のために留意、または工夫した事項			
「最上川緊急治水対策プロジェクト」の一環として、事業範囲には複数の工事があり現場出入口が同じであった事を踏まえダンプトラックの錯綜と現場出入口での一般車を絡む事故防止対策が必要であった。 「最上川流域緊急治水対策安全協議会」では土砂運搬の安全性を図る為「運行管理システム」を立案し密集する工事へ協力要請した。他工事とグループ化にした事で双方のダンプトラックの連携・位置情報を「見える化」にしPCでもリアルタイムでダンプトラックの動態管理が可能となった事でより一層の安全性の向上を目指した。			

発注機関	東北地方整備局　山形河川国道事務所		
工事名	飯豊地区歩道改良工事		
請負会社名	小国開発株式会社	現場代理人	渡部　崇
安全施工のために留意、または工夫した事項			
工事中の安全確保のため、道路利用者に対しては交通規制を早期に認識してもらうよう努め、沿道住民に対しては施工中の円滑な出入りを確保した。また、他事業者および別工事については、施工範囲内で計８工事が同時並行で進められていたため、当工事が主体となって連絡協議会を立ち上げ、施工箇所や工程の調整を行った。その結果、事故やトラブルもなく竣工を迎えることができた。			

発注機関	東北地方整備局　山形河川国道事務所		
工事名	毒沢地区道路災害復旧工事		
請負会社名	升川建設株式会社	現場代理人	三井寺　孝規
安全施工のために留意、または工夫した事項			
本工事は、国道13号猿羽根トンネル坑口上部の急傾斜地における災害復旧工事であり、墜落・転落災害や第三者災害等のリスク低減が課題であった。そのため、高所無人掘削が可能なセーフティークライマー工法、足場不要のスタンドドライブ工法を採用し、危険作業の低減を図った。また、安全柵設置、モノレールによる資材搬入、VR安全教育及び360°カメラによる現場確認により、安全性の向上と見える化を実施した。以上の取組により、施工方法・安全設備・デジタル技術を組み合わせた総合的な安全管理を実践し、無事故・無災害で工事を完成した。			

発注機関	東北地方整備局　新庄河川事務所		
工事名	鮭川流域布引沢砂防堰堤整備ほか工事		
請負会社名	星川建設株式会社	現場代理人	五十嵐　圭司
安全施工のために留意、または工夫した事項			
1. ソラテナProを活用した気象情報の把握 2. 作業半径内立入禁止措置・安全通路 3. つまづき転倒の危険を低減させるための鉄筋キャップを使った危険の見える化 4. KY活動や安全教育での避難経路の継続的な教育と、有事の際を想定した避難訓練			

発注機関	東北地方整備局　酒田河川国道事務所		
工事名	最上川下流榎木下流地区河川災害復旧工事		
請負会社名	林建設工業株式会社	現場代理人	佐藤　嵩明
安全施工のために留意、または工夫した事項			
JR近接作業範囲内での矢板護岸工において、JR営業線への影響防止を最重要管理事項と位置付け、各種対策を講じた。AR技術を活用した建築限界範囲の明示では、実際の施工機械を仮想上に配置し、各方向から建築限界との離隔を確認したうえで施工方法を検討した。また、実施工時には建築限界をリアルタイムで確認しながら作業を進めるとともに、ARにより抽出したデータを、作業フェーズごとの危険要素を反映した施工ステップ図に展開し、安全の見える化と現場従事者間の意識統一を図った。			

発注機関	東北地方整備局　最上川ダム統合管理事務所		
工事名	寒河江ダム管内維持工事		
請負会社名	株式会社石橋組	現場代理人	志田　隆之
安全施工のために留意、または工夫した事項			
湖面付近や洪水吐周辺で実施する流木処理作業に伴う転落事故防止のため、カラーコーン・バー・ロープ等により立入禁止措置を明確に行い、万が一転落した場合に備え、作業員全員にライフジャケットを着用させ、浮き輪や救助艇を配備し安全に工事を進めました。 また、寒河江ダムは下流の地域の飲料水や農業用水の水源のため、湖面周辺作業では重機の油漏れ事故・転倒事故等が無いように、作業前点検は２人体制で行い、特に油圧ホース等の点検を入念に実施すると共に、またクレーン作業では、簡易型風速計を活用し安全に工事を進めました。			

発注機関	山形県　置賜総合支庁建設部道路計画課		
工事名	令和６年度（債務負担行為）河川等災害復旧事業　（前々年災）４年災第9501号一般国道121号道路災害復旧工事（第３工区）		
請負会社名	置賜建設株式会社	現場代理人	秋生　直之
安全施工のために留意、または工夫した事項			
終日片側交互通行の交通規制を行いながら、仮橋撤去や下部工施工時の鋼矢板打込み・引抜き・土工、上部工施工時の床版コンクリート打設の施工を、道路用地半分の狭少な用地で施工する必要があったが、飛散防止シートや飛散防止ネットの設置を行い、一般通行車両への支障を防止しました。また、現場にSTARLINKによるネット環境を整備し、360°グラウド監視カメラによる現場作業の安全や交通トラブル監視を現場事務所内外で見える化（モニタリング）に取り組みました。			

発注機関	山形県　最上総合支庁建設部河川砂防課		
工事名	令和５年度（明許繰越）土砂災害対策事業（防災安全・地すべり（国補正））塩地すべり対策工事		
請負会社名	沼田建設株式会社	現場代理人	梁田　康延
安全施工のために留意、または工夫した事項			
・当該施工現場は、令和２年７月梅雨前線豪雨により大規模地すべりが発した場所の施工で、施工箇所が谷地形となり、作業箇所が狭隘であったため法面崩壊や土砂災害の危険・重機械災害の危険が予測された事から、法面崩壊・土砂災害に対し通信機能付きパトランプ警報機傾斜計を活用し、常に現場状況を確認監視した。施工計画段階で３Ｄデータを活用した重機配置作業計画を実施し、実際の作業時には重機械作業区画とマグネットポールを活用し作業区画を明確化する事により重機械と作業者の接触事故防止に努めた。			

発注機関	山形県　置賜総合支庁建設部道路計画課		
工事名	令和６年度道路施設長寿命化対策事業（補助・橋梁修繕）一般県道米沢浅川高畠線　新田橋橋梁補修工事		
請負会社名	株式会社三和	現場代理人	熊谷　伸二
安全施工のために留意、または工夫した事項			
冬期間の再塗装工事にあたり、足場設置時の安全確保と工期短縮を目的に、パネル式・ユニット式のシステム吊足場を採用した。これにより、安全性と設置・解体の効率化を両立させ、安全性を確保しつつ工期短縮を図ることができた。旧塗膜は鉛を含有していたため、吊足場から外部への飛散を抑え、環境への影響を低減できた。また、ブラスト作業は循環式ハイブリッドブラストシステム工法により実施し、作業にあたり、安全教育を徹底したうえで、クリーンルームを設置し作業員の健康被害を防止した。			

発注機関	山形県　最上総合支庁産業経済部農村整備課		
工事名	令和６年度大向上野地区水田農業低コスト等基盤整備事業第１工区工事		
請負会社名	矢口興業株式会社	現場代理人	石山　裕次
安全施工のために留意、または工夫した事項			
月１回、半日以上の安全訓練のマンネリ化を防ぎ、積極的な参加を促し実のある安全訓練にする為に、過去に視聴したことのある市販の安全ビデオを使うのではなく、今まさに作業を行っているこの現場の生の作業状況をスマートホンにて撮影し、その動画を教材として視聴することにより、気づかなかった危険個所・危険行動にも気づき、活発な意見も見られるようになり、工程が進むにつれて様々な教材を得ることもでき、参加させられていた安全訓練が、作業員自らが積極的に参加したい安全訓練へと変化した様な気がします。			

発注機関	山形県　港湾事務所		
工事名	令和６年度（繰越）地方港湾整備事業費（港整備交付金）加茂港外１港浜町岸壁（-4.5m）外浚渫工事		
請負会社名	株式会社みなと	現場代理人	佐藤　友哉
安全施工のために留意、または工夫した事項			
・加茂航路施工時狭隘なため、カニ漁船の入出港時間の把握。 ・熱中症が懸念される時期の施工のため、外部講師を招いて安全教育 ・WBGT計を船員に携行させ、意識向上 ・熱中症対策（ヘルメットひさし・塩飴・エアコン・熱中症対策飲料常備・ボディシート） ・停泊岸壁に第３者立ち入り禁止のバリケード設置			

発注機関	東日本高速道路株式会社　山形管理事務所		
工事名	東北中央自動車道　大谷地地区附帯工工事		
請負会社名	大和建設運輸株式会社	現場代理人	齋藤　清孝
安全施工のために留意、または工夫した事項			
本工事は、田面及び畦畔の補修作業であることから、地権者の利用する側道上での交通災害、圃場内での重機作業のため油漏れ対策を講じ作業を行った。また、圃場脇に架空線があることから、架空線切断等の公衆災害を防止した。各作業の着手前に作業計画及び作業手順書を策定し作業従事者に確実に周知する事で、一人一人の安全意識の向上と危険ポイントの共有を図り、「ヒューマンエラー防止、全作業従事者への現場内ルールの周知徹底」を講じ無事故無災害へと繋げた。			

発注機関	東北地方整備局　福島河川国道事務所		
工事名	国見地区改良舗装工事		
請負会社名	前田道路株式会社　東北支店	現場代理人	安彦　大樹

安全施工のために留意、または工夫した事項

当工事は、一般国道４号国見地区付加車線整備により、交通事故の削減と交通の円滑化を図るものである。施工箇所は交通量が多く下り勾配区間のため、一般車両との接触事故が懸念された。このため、安全対策として規制帯の高視認化と規制時間の厳守を実施した。具体的には、規制１km手前から予告看板を設置し、電光掲示板や高輝度照明により視認性を向上させた。また、舗装に中温化合材を採用し、夏季の交通開放までの時間短縮を図ることで規制時間の遵守を可能とした。これらの取り組みにより、無事故・無災害で完成させることができた。

発注機関	東北地方整備局　郡山国道事務所		
工事名	一箕町地区道路照明灯設置工事		
請負会社名	株式会社会津電気工事	現場代理人	目黒　俊市

安全施工のために留意、または工夫した事項

当該工事は市街地を通る国道49号線の道路照明灯の建替工事であり、道路照明灯の建柱箇所は非常に多くの埋設設備（電線共同溝、情報管路、上下水道管、ガス管）が埋まっており施工時に破損のリスクが非常に高い状況であった。また道路照明灯の基礎は杭基礎を予定していたため打込み時に直接削溝部が確認出来ず非常に危険な作業となる事が懸念された。各埋設物管理者からの資料を基に施工箇所で最も深い設備を特定し試掘を行う事で、建柱箇所に埋設設備が無いことを確認し杭基礎の打込作業を安全に進め、事故防止に努めた。

発注機関	東北地方整備局　磐城国道事務所		
工事名	長塚地区道路改良工事		
請負会社名	田中建設株式会社	現場代理人	久坂　景行

安全施工のために留意、または工夫した事項

国道６号を規制し、上下線それぞれ迂回させる交通形態となったが、カラー舗装色を上り線（赤）下り線（青）に色分けし走行車線を誘導することで接触事故の防止に努めた。また施工段階ごとに交通形態の切替があり、通行する車両がこの先の道路状況を早期に判断できるように予告看板を設置した。加えて、架空線への空間エリアセンサーの設置、ＶＲ技術による災害仮想体感システムを用いた安全教育の実施など安全対策を図り、無事故無災害で工事を完成させることができた。

発注機関	福島県　県北建設事務所		
工事名	県営住宅改善工事（外断熱）		
請負会社名	株式会社郡山塗装　福島支店	現場代理人	高橋　佑季

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事は入居者が生活する供用中の県営住宅における外断熱改修工事であることから、第三者災害防止を最重要課題としてリスクアセスメントを実施し、住民への継続的な周知、管理人との情報共有及び資材搬入時間の分散化による動線分離を図った。外断熱施工及びアスベスト含有部位の補修では、湿潤化施工、粉塵飛散抑制剤及びHEPAフィルター付き電動工具を活用するとともに、粉塵濃度監視や養生点検を徹底し、粉塵飛散及び第三者曝露防止に万全を期した。これらの取り組みにより、工事期間を通じて第三者災害及び公衆災害ゼロを達成した。

発注機関	福島県　県北建設事務所		
工事名	街路（交付（街路））工事（改良舗装）		
請負会社名	広成建設株式会社	現場代理人	大橋　知己

安全施工のために留意、または工夫した事項

本工事は交通量の多い市街地での道路改良工事であり、小学校や店舗、住宅が隣接していたことから、第三者への安全確保を重要課題とした。そのため、店舗出入口や進入路付近への誘導員増員や、施工箇所内の歩行者通路設置により歩行者等の安全確保を図るとともに、関係機関との協議を行って信号機の点滅運用を用いた安全かつ円滑な交通管理に努めた。さらに横断幕や工事案内チラシによる事前周知、メッシュ看板の設置、夜間施工の活用による交通渋滞や第三者への影響低減に努め、無事故で工事を完成させた。

発注機関	福島県　土木部営繕課		
工事名	福島県郡山合同庁舎整備（電気）工事		
請負会社名	高柳電設工業株式会社	現場代理人	金澤　唯
安全施工のために留意、または工夫した事項			
当該工事は、JR線路や隣接施設への第三者災害防止及び他工事との輻輳作業による重機接触を防ぐため、大型機器搬入時はBIMを用いてステージやクレーン配置等を可視化し、安全を確保した。日々の連絡調整は、施工管理ソフトによりリアルタイムに情報共有することで伝達ミスを防止し、緊急時の迅速な対応も可能とした。また、クラウドカメラによる遠隔監視体制を構築し、工事監理者との情報共有や異常気象時の対応検討・確認に貢献した。熱中症対策として携帯型WBGT計、ウォッチ等で従事者の体調管理を徹底し、熱中症リスクを低減させた。			
発注機関	福島県　県中建設事務所		
工事名	道路橋りょう整備（再復）工事（改良舗装）		
請負会社名	三和工業株式会社	現場代理人	近内　隆政
安全施工のために留意、または工夫した事項			
現道の国道288号とバイパスを接続する工事では、施工中も安全に交通を確保する必要があったため、歩行者の安全通路の確保及び車両の片側交互通行等、公衆災害防止、作業員の安全確保に万全を期して施工を進めた。特に交通量の多い道路切替後は現道が通行できなくなるため、電光掲示板や電光矢印による誘導、特に夜間時は、蛍光LEDライトを活用した交通誘導を実施し、視認性の向上に努めた。さらに、交差点部においてはバイパス開通までの期間、第三者の誤進入を防止するための対策を継続的に実施し、交通事故の未然防止に取り組んだ。			
発注機関	福島県　南会津建設事務所		
工事名	道路橋りょう維持（補助）工事（橋梁補修）		
請負会社名	株式会社新井組	現場代理人	深津　修二郎
安全施工のために留意、または工夫した事項			
橋梁補修のため、狭い中に十分な作業床幅を持った足場を設置し、更に足場の転倒防止策を講じる必要がありました。そのため、桁コンクリート部にアンカーを設けて、チェーンで足場を吊る等の対策を講じ、また材料を置くスペースが限られていたので、無線機で材料受け渡しの連絡を取り合い、不要な材料を置かず、足元を整理整頓して作業しました。また、できる限り橋梁点検車を用いて作業を行い、組立途中の足場上での作業が少なくなるよう、安全に配慮しました。			
発注機関	福島県　相双建設事務所		
工事名	道路橋りょう整備（補助）工事（電線共同溝）		
請負会社名	石川建設工業株式会社	現場代理人	青田　真克
安全施工のために留意、または工夫した事項			
原ノ町駅前での工事であり歩行者や通行車両の多い中、特に歩行者、軽車両の安全な通行帯の確保に留意しました。また、既存インフラのある中、架空線においては作業目線での架空線の見える化、地下埋設物は、全線で筋掘りを行い目視による位置確認を行い、路面に明示し公衆災害防止に努めました。 熱中症対策については、作業現場や休憩所前にミストファンを設置し、作業員の身体的負担の軽減に努めた他、月一度、建設業労働災害防止協会福島県支部の指導員を招いて、安全パトロールを実施しました。			
発注機関	東日本高速道路株式会社　いわき工事事務所		
工事名	東北支社　いわき工事事務所解体工事		
請負会社名	株式会社小野中村	現場代理人	三浦　拓実
安全施工のために留意、または工夫した事項			
場内を常に整理整頓することで資機材、解体材によるつまずき転倒災害を防ぐことができた。グループ会社による安全パトロールを実施し、他社の目線から現場内における危険箇所、危険因子、不安全行動を排除することで労働災害を未然に防ぐことができた。石綿除去作業の際には、養生足場の設置時に既存建物のビットを活用し養生範囲を最小限に抑えるよう工夫した。また架空線付近での作業については、バックホウに無線式角度警報装置を取付けることにより架空線切断の防止に努めた。			

安全に関する論文表彰

【優秀賞】一覧表

ICTとWebを活用した安全管理	株式会社深松組	相澤　達哉
３DCADを活用した情報特化型安全管理	株式会社橋本店	伊藤　和輝
建設DXを活用する安全対策	奥田建設株式会社	加藤　一
安全管理におけるAIの活用	伸和興業株式会社	荒木　郁弥
工事の安全確保で見えたもの	株式会社村田工務所	佐々木　玲碧
命を繋ぐ一本の帯	株式会社佐々木建設	福田　泰久
熱中症と向き合う建設業	株式会社丸本組	佐藤　海都
「確認する安全」から「予防する安全」へ	熱海建設株式会社	小松　秀徳
最新技術の活用と技術進歩による不安	若生工業株式会社	大山　純
安全について考える	株式会社深松組	稲崎　淳
重機災害における安全管理	日建工業株式会社	木村　公哉
私が考える現場の安全を守るための方法	清水建設株式会社東北支店	内田莉菜(社員の子)
風通しの良い現場環境づくりのために若手ができること	五洋建設株式会社東北支店	八木澤　武蔵
無事故・無災害と５S活動	株式会社安藤・間	鈴木　理紗
一斉清掃の必要性	西松建設株式会社	花釜　航平
安全性向上に向けた「前例踏襲の取扱い」の見直しについて	仙建工業株式会社福島支店	伊藤　宏大
「言語」に依存しない安全管理についての提案	株式会社フジタ	中嶋　大翔
慣れと遠慮が招く危険性	福田道路株式会社仙台営業所	林　玲嘉
いつも安全を願って	大林道路株式会社東北支店	田口　幸(社員の妻)
安全は全てに優先する	大成ロテック株式会社東北支社	細川　将太
自分も周りも清潔に	株式会社ガイアート	宍戸　小夏
子どもから親へ「無事に帰ってきてほしい」という願い	株式会社ＮＩＰＰＯ三沢出張所	細井心真(社員の子)
一瞬の油断が生む悲劇を防ぐために	陽光建設株式会社	武者　高広
ヒューマンエラーの本質を見据えた安全管理と、現場に信頼を築くアプローチ	五洋建設株式会社東北支店	濱原　流真
若手社員として取り組む安全管理とKY活動	東亜建設工業株式会社東北支店	小笠原　弘樹

【優秀賞】

ICTとWebを活用した安全管理

株式会社深松組　相澤　達哉

【ICTとWebを活用した安全管理】

建設現場では、何よりもまず作業員の安全を守ることが求められます。近年は建設業界でもICT技術の活用が進み、生産性向上だけでなく安全対策にも大きな効果を発揮しています。また、地域住民の皆様に安心していただくための情報発信も重要になっています。当現場ではICT建機の活用や現場ホームページによる情報発信を行いながら、安全で働きやすい現場づくりに取り組んでいます。

これまでの建設工事では、重機作業の際に施工位置や高さを確認するため、作業員が重機の近くで作業を行う場面がありました。そのため、十分な安全対策を講じていても重機との接触リスクが存在していました。当現場ではICT建機を導入し、設計データを建機へ取り込むことで、オペレーターが運転席のモニターを見ながら施工できる環境を整えています。

ICT建機の活用により、従来必要だった丁張設置や施工中の確認作業が減り、作業員が重機周辺へ立ち入る機会が少なくなりました。その結果、接触災害のリスク低減につながっています。また、施工精度も向上し、手直し作業が減少したことで無駄な作業時間の削減にも効果がありました。作業時間が短縮されることで身体的な負担も軽減され、安全面でも良い結果につながっていると感じています。

安全な現場をつくるためには、情報共有も欠かせません。当現場では施工計画書や作業手順書、安全関係資料をデータ化し、タブレット端末を利用して共有しています。必要な情報をその場で確認できるため、作業内容や危険箇所について全員が同じ認識を持って作業に取り組むことができます。

また、夏場の熱中症対策にも力を入れています。近年は猛暑日が続くことも多く、現場作業における熱中症リスクは年々高まっています。当現場ではWBGT値を確認しながら作業計画を立て、危険な時間帯には休憩時間を確保するなど状況に応じた対応を行っています。さらに、空調服や冷却用品の活用、スポーツドリンクや経口補水液の常備、休憩所の環境整備を行っています。また､作業員同士で積極的に声を掛け合い、体調変化を早期に把握できる環境づくりを進めることで、熱中症の未然防止に取り組んでいます。

当現場では地域住民の皆様とのコミュニケーションにも力を入れています。工事期間中は騒音や交通規制などにより、少なからずご不便をお掛けすることがあります。そのため、工事への理解を深めていただき、安心していただくことを目的として現場ホームページを開設しています。

ホームページでは工事の進捗状況や施工内容、安全対策への取り組みなどを定期的に更新しています。特に工夫している点は、工事看板や工事のお知らせにホームページへアクセスできるQRコードを掲載していることです。スマートフォンで簡単に読み取ることができるため、地域住民の皆様が必要な時に工事情報を確認できる環境を整えています。

現場ホームページには工事写真や進捗状況を掲載し、地域住民の皆様が工事内容を分かりやすく確認できるようにしています。情報を公開することで工事への理解促進や不安軽減につながるとともに、情報発信を行う現場職員の安全意識や整理整頓への意識向上にもつながり、現場全体の安全管理の強化に役立っています。

安全な現場づくりは一つの対策だけで実現できるものではありません。ICT建機による接触災害リスクの低減、デジタルツールを活用した情報共有、熱中症対策の徹底、そして現場ホームページによる地域住民への情報発信など、さまざまな取り組みを積み重ねることが大切だと考えています。これからも新しい技術を積極的に活用しながら、安全で働きやすい現場づくりと地域から信頼される現場運営を続け、無事故・無災害を目指していきたいと思います。

【優秀賞】

３DCADを活用した情報特化型安全管理

株式会社橋本店　伊藤　和輝

本工事は宮城県加美町に位置する鳴瀬川ダムに係る迂回路工事であり、国道347号線を迂回するための仮橋を設置する仮設構造物工が主な工事内容である（添付１）。この工事の問題点は120ｔクレーン組立解体時のヤード確保のため国道を通行止めにする必要があること。狭い施工ヤードで既設防護柵にクレーンが干渉すること、そして３つ目にクレーン作業半径不足で施工が困難であることが挙げられた（添付２）。

ここで、話は１週間前にさかのぼる。今回の主役は、問題点を見つけるために用いた技術「３DCADによる施工シュミレーション」である。弊社にはBIM/CIMに特化した部署があり､そこで現場のドローン点群取得から３DCAD製作を行っている。今回３DCADを現場に取り入れることで上記問題点が計画段階ですぐに浮き彫りとなり、約１週間という時間で問題を共有し速やかに対応出来た。

発注計画時は120tクレーンのみの重機計画となっていたが、３DCADにて75ｔクレーンとリーダーレ

ス杭打機を併用することで片側通行による施工を可能にすることが出来た。また、クレーンが小さくなることで既設防護柵が干渉する問題点も併せてクリアした(添付３)。そして、この工法変更を発注者へ説明する際に、誰が見てもわかりやすい３ＤＣＡＤを活用しスムーズに理解を得ることが出来た。

２次元の発注図面ではクレーンの配置パターン毎に紙に印刷してまとめていた。クレーンが既設防護柵に干渉することや､仮設材重量をひとつずつチェックし､旋回範囲を把握するのにこれまで大きな時間をかけてきた。そしてその情報は属人化していき、手を付けた人にしかわからない姿になって、どんどん情報が複雑に成長していく。１週間という短期間では解決までに到底たどり着かないことは、技術者であれば容易に理解出来るだろう。

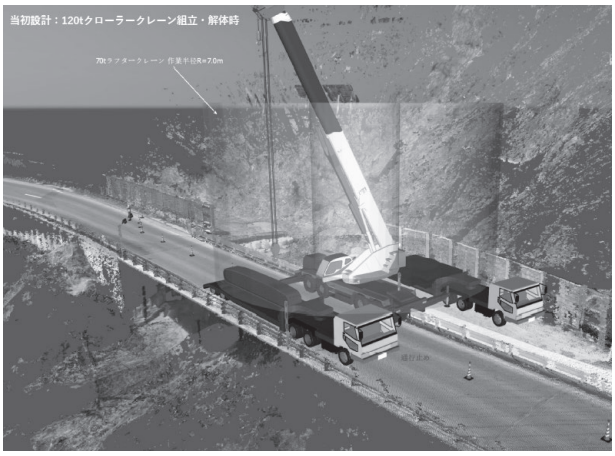
工事の問題点を解決したこの取り組みは、現場の安全管理にも有意義なものになった。H型鋼ひとつの重量や、クレーン旋回範囲、国道の保安設備配置計画、狭い施工ヤードでの作業通路、３DCADを現場関係者が共有することでどこが危険か、ボタンひとつでだれが見てもわかる状態になっているため、いろんな対策案を抽出することが出来た。まるで、自分たちが完成した現場に立っているように話を進めていた。鳴瀬川ダムに関連した他工事との連絡調整にも３DCADを用いて説明を行った。自分の現場の完成はイメージ出来ても、他社の工事の完成イメージをすることはこれまで難しく、それを納得させるのに時間と労力を費やしていた。

BIM/CIMとは、情報である。単に立体的な図面に留まらず、様々な情報が付与されて、わかりやすいということが最大のメリットである。安全についても「情報」は極めて重要で、外気温、吊り荷重、重機の大きさ、第三者の有無、現場毎に変化する様々な情報を的確に理解し対策する。情報を上手に把握することが安全管理の向上につながると今回の３DCADシュミレーションが教えてくれた。

課題として３DCAD自体の製作や操作には専門技術が必要で使いこなすまで時間がかかることが挙げられる。今後はAIの技術が発展し、誰でもわかりやすくて、誰でも簡単に使いこなせる時代が来るだろう。現場の情報をうまく使いこなし、現場の危険を可視化することでより安全な現場で働ける未来を、３DCADは私たちに想像させてくれる。



添付１　施工箇所



添付２　120tクレーン組立　国道の通行止め



添付３　75ｔクレーンとリーダーレス杭打機併用による検討
国道の通行止めを解決、既設防護柵の干渉なし

【優秀賞】

建設DXを活用する安全対策

奥田建設株式会社　加藤　一

自分がJVとして関わった、宮城県名取市愛島の「川内沢ダム」が今年度小暑に試験湛水を迎える事にな

り、そこに従事した３年９ヵ月で学ばせて頂き経験出来たこともあり実際に見て、経験して、思った事を安全の論文として伝えたいと思います。まず、コンクリートダム建設の現場では、コンクリートの打設進捗に合わせての日々の危険個所が変わる事、複数の工種が多くこれまでに経験したことの無い日々の段取り替え、現場内に有る揚重作業のタイムスケジュールの管理、協力会社さんの人数等々把握仕切れなくなるほどあります。

この中で、現場に従事する多くの人が一目で解るような安全設備の設備や明確なルールの定め方が重要になってきます。



朝礼広場にデジタルサイネージの設置・使用

建設業では作業日には安全朝礼を実施していると思います。そこで、朝礼広場の安全掲示板にデジタルサイネージを設置し活用しました。安全掲示板は大きさが決まっており、限られたスペースに掲示できる情報量は限られてしまいます。デジタルサイネージを使用することによって、日々の進捗による調整事項を画面に表示させる事によって、安全朝礼時に作業員全体に確実な安全指示の伝達が可能になっています。

また、朝礼終了後でも画面が切り替え可能で時間ごとに表示される内容を変える事ができるのでスポット作業にも対応可能です。さまざまな、情報を作業員さんへ発信できるので全体の安全意識向上につながっていると思います。





近年の猛暑日多発への熱中症対策

夏季作業期間は年々平均気温が高くなっていき、近年では秋口をも超えて真夏日になる天候も多くなってきています。このような気象条件変化の中で、現場の熱中症対策も年々対策改良をしていかなければなりません。

当現場の熱中症対策としましては、WBDT値（暑さ指数）を安全朝礼時に発表、その後現場で掲示するとともに各職長さんへの黒球式熱中症指数計の携帯、移動式クーラーを常備した休憩所の設置をおこなっています。また、現場で計測したWBGT値をクラウド上で管理し、計測値に応じて各職長に警戒アラームが発信されるBizstackというシステムを導入しました。これらの導入により、熱中症の危険度をリアルタイムで知ることができ、熱中症対策への意識向上が高められていると思います。

従来からの対策として、毎朝の体調管理シートへの記入、各休憩時の熱中症対策点検表の記入、当日のWBGT値に応じた簡易休憩時間の設定を実施しています。また、熱中症についての教育を４月下旬からの安全教育に取り入れて繰り返し教育を行う事で、熱中症対策への関心を高めています。

上記の熱中症対策により、当現場一丸となってシーズンの熱中症発生者数ゼロを目指しています。





現場管理へQRコードの導入

建設現場では、資材の搬入から工事の進捗管理、品質管理に至るまで、さまざまな情報を管理する必要があります。このうち川内沢ダム本体工事では、QRコードを使用して購入骨材の骨材貯蔵庫への誤搬入防止管理システムを導入し、安全管理としても日々の建設機械の日常点検記録簿をArchによりデジタル化を行いました。これにより持込許可書の発行、受理書、点検表に至るまでをペーパーレス化する事が出来ました。実際の点検はスマートフォンでQRコードをかざすだけで点検実施や記録確認が簡単になり、毎月の点検表の差し替えや現場を駆け回って実施状況の把握につとめる必要が無くなり、業務効率が向上しました。

以上が当現場で取り入れている安全対策の事例になります。働き方改革による法律改正もスタートし、元請職員・協力会社共に今まで以上に作業効率を考える必要が出てくると思います。労働時間が制限される中で、安全に対する意識が疎かになることがないように、建設DXとICT技術を取り入れた新しい安全対策が今後必要になると考えます。

また、新しい取り組みも実施しつつ、上司・協力会社の皆さんとのコミュニケーションをとることが大きいと考えます。何気ない会話をする事で現場での一体感が生まれ、現場内で他業者さんが不安全行動をしていた等を教えてくれ注意する事ができる環境になりました。今後もこの事を踏まえつつ、災害ゼロの現場作りを実践していきたいと思う。

【優秀賞】

安全管理におけるAIの活用

伸和興業株式会社　荒木郁弥

「無理せず、安全第一でいきましょう」

私は朝礼やKY活動の際に意識的にこの言葉を声がけするようにしている。工程が厳しい日ほど作業を急ぎたくなるが、焦りや思い込みは重大な事故につながるためである。どれだけ品質の良い仕事をしても、一度事故が起きてしまえば、作業員本人だけでなく、その家族や会社にも大きな影響を及ぼす。だからこそ私は、安全は品質や工程よりも優先して取り組むべきものだと考える。

近年、建設業では働き方改革が進み、週休二日の定着や時間外労働の上限規制への対応が求められている。一方で、現場監督の業務は工程管理、品質管理、安全管理だけでなく、書類作成や発注者との打合せなど幅広く「休日は増えたが、業務量は変わらない」状態となっている。

そのため、業務を効率化しながら安全管理の質を維持することが、これまで以上に重要になってきていると感じる。

私は、効率化の手段の一つとしてAIを活用している。安全書類や施工計画書の作成補助、過去の災害事例の検索などにAIを取り入れることで、書類作成にかかる時間を短縮できるようになった。もちろん、AIが作成した内容をそのまま使用するのではなく、現場条件や施工内容に合わせて自分で確認・修正した上で活用している。

AIを活用して生まれた時間は、できるだけ現場確認に使うよう心掛けている。巡視の回数を増やし、危険箇所や作業環境を確認したり、作業員と積極的にコミュニケーションを取ったりすることで、小さな異変や不安にも早く気付けるようになった。また、朝礼やKY活動では、その日の作業内容に合わせて危険箇所を具体的に説明し、過去の災害事例も交えながら注意点を共有するようにしている。ただ効率化するだけでなく、効率化によって生まれた時間を現場へ還元することが、安全管理を充実させるうえで最も重要だと感じた。

また、監督業務は忙しい時期になると書類作成等で労働時間が長くなる傾向がある、疲労が蓄積すると集中力や判断力が低下し、確認不足や思い込みによるヒューマンエラーが起こりやすくなる。こうしたミスは重大な労働災害につながる可能性があるため、AIを活用し作業時間を短縮することで十分な休息時間を取り、心身に余裕を持って仕事に取り組める環境を作ることも、安全管理の一つであると考えている。

ここまで、ＡＩを活用し作業を効率化することのメリットを挙げてきた。しかし、AIは便利なツールではあるが、現場の状況をすべて判断できるわけではない。最終的に安全を守るのは自分自身であり、自分の目で現場を見て、作業員の声を聞き、自分で判断するという基本はこれからも変わらない。

AIを使えば仕事は早くなるが、一番の目的は仕事を楽にすることではなく、その分現場を見る時間や作業員と向き合う時間を増やすことである。その積み重ねが現場従事者の安全意識の向上や自身のスキルアップにつながり、結果として全員が安心して働ける現場づ

くりにつながると考えている。今後もAIをうまく活用しながら、安全管理の基礎・基本を大切にし、働き方改革と安全管理を両立できる現場を目指していきたい。

【優秀賞】

工事の安全確保で見えたもの

株式会社村田工務所　佐々木　玲碧

私は昨年度、『古川国道防災対策工事』にて施工管理担当者として従事しました。

主な工事内容は、一般国道４号下り車線側地山に雨等による崩落箇所があり、将来的に地山全体が崩落する可能性を防止する為、法面の掘削・整形を行い、繊維製かごマット（538㎡高さ最大７ｍ）を階段状に設置する工事です。

本工事を施工するにあたり、主に３つの危険ポイントが課題となりました。

①重機関連の事故。重機旋回時、重機と作業員又は重機同士が接触し被災する可能性。

②片側交互通行規制関係の事故。交通誘導警備員と一般車両の接触事故及び一般車両同士の事故が発生する可能性。

③繊維製かごマット施工時の高所作業における転落事故発生の可能性。

これらの事故を防止するため、本工事では重点的に次の対策を行いました。

①の重機関連の事故対策として、重機の作業半径内を立入禁止とする為、重機本体に作業半径を地面に投影するライトを装着しました。

この対策により、常時作業半径を表示し、薄暮時や濃霧等の視界不良の際も誰でも一目で視認できるよう、作業半径の見える化を行いました。又、重機同士の接触事故防止として、各重機に対し重機から視認出来る範囲に合図者を配置し、複数の重機の誘導を行わないよう周知しました。

重機同士が一定の離隔を確保したまま作業出来るよう、施工の手順も改めて見直しを行い、重機同士の近接が少なくなるよう調整を行いました。

②の片側交互通行規制の事故対策として、規制設置時及び撤去時の流れを明確にし、規制手順統一を図りました。

交通誘導警備員の誘導の確実性と安全性を高めるために、手旗誘導に加え、仮設式信号機を車両停止装置の隣に設置しました。又、仮設式信号機に専用の延長ケーブルと足踏み式切り替え機を組み合わせ、交通誘導警備員の配置位置を後退させる事で避難スペースを大幅に確保する事が可能になり、結果的に誘導の確実性と安全性を両立する事が出来ました。

規制箇所周辺の商業施設出入口付近には別の停止位置と交通誘導員の配置を行い、円滑な交通を確保する事が出来ました。

③の高所からの転落事故の対策として、施工段階ごとに親綱を設置し、作業員にハーネスを確実に使用させるとともに、作業足場が繊維製かごマット上と不安定な為、合板を敷設し、作業足場の安定性を確保しました。

加えて、高所では突風等の影響でバランスを崩し転落する可能性も考え、現場内に吹き流しを設置し、風速確認を日々行いました。

以上の対策を講じ、重機災害及び、交通災害等の発生は無く、無災害で工事を完了する事が出来ました。

今回の工事では、経験の浅い私にとっては工事現場内の危険箇所や安全対策について考える事が多く、ＫＹ活動や現場巡視等の重要性について、再度意識する事が出来ましたが改めて本工事を振り返ってみると更なる改善が出来る部分もあり、今後の安全管理では今回の経験を生かしながら、現場環境や現場関係者の意見等を踏まえつつ工夫し、より良い安全管理に今後も取り組んでいきたいと思います。

【優秀賞】

命を繋ぐ一本の帯

株式会社佐々木建設　福田　泰久

建設現場の安全管理を担う者として、日々「労働者の命をいかに守るか」という命題と向き合っている。多くの重機が行き交う土木の現場において、とりわけ稼働頻度が高いのがバックホウ（油圧ショベル）である。掘削から積込み、整地まで多用途に活躍するこの重機は、現代の建設施工に欠かせない。しかし、その高い利便性の裏には、一瞬の油断が重大な労災事故に直結するリスクが常に潜んでいる。バックホウにシートベルトが必要な理由は大きく分けて２つある。

１つ目は、「機体との一体化による生存空万が一の転倒時にオペレーターを保護する強固なキャビンを備えている。しかし、この安全空間は、運転者が座席に固定されていることを前提に設計されている。シートベルトをしていなければ、転倒の衝撃で頭部を天井やガラスに強打して意識を失うか、車外へ放り出されてキャビンの下敷きになってしまい、強固なキャビンも意味をなさない。

２つ目は、「不意の挙動に対する運転姿勢の保持」である。不整地や傾斜地を走行するバックホウは、路面の凹凸によって激しく揺れる。シートベルトで身体をホールドすることは、正確なレバー操作を維持するためにも不可欠であり、操作ミスによる二次災害を防ぐことにも繋げることが出来るのだ。

現場の巡視を行う際、私が最も神経を尖らせ、かつ作業員との意識の乖離を感じるのが「重機運転時のシートベルト着用」である。自動車でのシートベルト着用は今や当然の義務として定着しているが、建設現場における重機の運転、特にバックホウにおいては、「敷地内の短い移動だから」「スピードが出ないから」「頻繁に乗り降りするから」といった理由で、着用を怠るオペレーターが後を絶たない。この「慣れ」と「過信」を打破し、シートベルト着用の必要性を徹底させることこそ、現場管理側に課せられた責務である。

近年、我が宮城県内でも、シートベルトの未着用による重機の転落や横転に伴う痛ましい事故が相次いで発生している。中でも宮城県栗原市の工事現場において発生した事故では、トレーラーからショベルカーを降ろす作業中にバランスを崩し、道路脇の斜面から約５メートル下に転落し、運転していた男性が重機の下敷きとなり、尊い命を落とされている。

こういった重大事故を管理側の目線で分析するとき、とある教訓が得られる。それは、「重機はどれほど熟練したオペレーターが運転していても、足場の変化や一瞬の過負荷によって、いとも簡単に横転・転落する」という現実である。そして、運転者がシートベルトを着用していない場合、機体が傾いた瞬間に運転席から投げ出され、自らが運転していた数トンから数十トンもの重機の下敷きになってしまうケースが非常に多いということだ。これらバックホウ操縦による重機災害の大半の事故が、シートベルトを正しく着用し、頑丈なキャビンやＲＯＰＳ（転倒時保護構造）の内部に身体が留まっていれば、機体は大破しても命は助かったと思われる。だからこそシートベルトの装着は必要不可欠である。

労働安全衛生規則第157条の２において、事業者は転落や横転の危険がある場所で車両系建設機械を使用する際、運転者にシートベルトを着用させるよう努めなければならないと定められている。しかし、管理側の目線から言えば、これは「努力義務」ではなく、現場から一人の死傷者も出さないための「絶対義務」として運用しなければならない。

現場の安全管理を強固なものにするためには、単に「ベルトを締めろ」と命令するだけでは不十分である。作業員一人ひとりがその必要性を「腑に落ちる形」で理解できるよう、管理側が粘り強く働きかけなければならない。

具体的な対策として、第一に「徹底した視覚化と声掛け」を行う。新規入場者教育や朝礼、ツールボックスミーティングの時間を活用し、先に挙げた宮城県内などの具体的な災害事例を共有する。痛ましい事故を教訓として直視させることで、「自分だけは大丈夫」という根拠のない自信を打ち砕く。

第二に、「ハードウェアとルールの融合」である。シートベルトを着用しなければエンジンが始動しないシステムや、非着用時に外部の警告灯が点滅するような最新技術の導入を企業として検討・促進していく。これらに付随して現場巡視の際には「シートベルト未着用は一発退場もあり得る」という強い姿勢を示し、安全に対する妥協なき姿勢を周知していく必要もある。

建設業は、インフラを支え、地域社会の発展に貢献する誇り高き仕事である。しかし、その現場で働く労働者が夕方に無事、家族の元へ帰ることができなければ、どのような素晴らしい構造物を造り上げたとしても、その工事は「失敗」である。

バックホウのシートベルトを締めるという行為は、時間にしてわずか数秒にすぎない。その数秒の手間を惜しんだがために、本人はもとより、残された家族の人生までをも暗転させてしまうのが、建設現場の災害の恐ろしさである。

管理側である私たちは、作業員から時に「うるさい」「面倒だ」と煙たがられたとしても、シートベルトの着用を指導し続けなければならない。それが、預かった大切な命を守るリーダーとしてのプライドであり、義務である。宮城県から、そして全国の建設現場から重機災害による悲劇を根絶するため、私はこれからも現場の最前線で、命を繋ぐ一本の帯の重みを訴え続けていく所存である。

【優秀賞】

熱中症と向き合う建設業

株式会社丸本組　佐藤海都

○はじめに

近年地球温暖化に伴い夏場の気温が著しく上昇し、外に立っているだけでも汗をかき、喉が渇いてしまうような気候が続いています。暑さに慣れていない人であれば命の危険が伴う環境が今後も続く予報です。そんな環境下の中でも外で仕事をしなければならないのが建設業であります。そこで建設業が今後どう熱中症と向き合っていくかを提案したいと思います。

○熱中症になる前の対策

どんな病気でも未然に防ぐ必要があり、熱中症は後遺症の恐れが特に顕著に表れるため未然の対策が必要です。熱中症の後遺症は脳に悪影響を及ぼす可能性があり、よく例えられるのが「卵」であります。生卵がゆで卵になった場合は元に戻らないのと同じで脳が熱によって損傷を受けた場合は元の正常な状態に戻らないと言われることがあります。このようにならないために未然の対策が重要になってきます。

熱中症になりやすい人の特徴は自分の体調管理が苦手な人であると思いました。熱中症を疑われたことがあ

る人の話を伺うと、当時は繁忙期で睡眠時間が不足している中、高強度の作業をしている最中に熱中症になったと伺いました。
そこで効果的であると感じた対策は「ウェアラブルデバイス」の装着です。この装置は手首に腕時計のように巻き付ける機械であり、深部体温を測定して熱中症の恐れがある体温になると振動と音で知らせる機械です。
この機械があれば作業に集中している状況下でも体調の変化を知らせてくれるため休憩や水分補給のタイミングを適切に管理することが可能となります。実際に現場で使用する際は、このデバイスが通知した際に休憩を取ることによって各自の体調に合わせたタイミングで休憩を取ることを可能にしました。
○熱中症になった後の対策
現場では様々な熱中症対策を行っていますが、熱中症になってしまった後のことも考えなければならないと思います。熱中症の症状によっては救急車で病院に搬送する必要があり、救急車が来るまでの間に適切な処置をする必要があります。そこで現場で用意しているのが熱中症罹患者の体温を下げる「熱中症救護袋」です。この救護袋はキャンプで用いられる寝袋のような形をしており、罹患者を救護袋に入れ、袋の中を水道水で満たします。救急車が来た際には排水ファスナーが備えてあり、一気に水を排水することが可能です。また、担架機能も備えてあり、救急隊に即座に引き渡すことが可能です。
○おわりに
当現場では先程述べた「ウェアラブルデバイス」と「熱中症救護袋」を備えて運用しております。適切な休憩タイミングの把握と熱中症罹患後の適切な対処を行うことによって、これからの猛暑に備えます。
近年深刻化する猛暑に続いて熱中症のリスクは高まりますが建設業は必ず向き合わなければならない問題であります。今後現場を管理していく中で熱中症対策の最適解を模索していきます。

【優秀賞】

「確認する安全」から「予防する安全」へ

熱海建設株式会社　小松　秀徳

建設業は社会インフラを支える重要な産業である一方、重機や大型車両を扱う機会が多く、他産業と比較して労働災害のリスクが高い業種である。近年はICT施工や建設DXの普及により生産性向上が進んでいるが、安全管理においては依然として人の経験や目視による管理に頼る場面も多い。私は、安全管理の質をさらに高めるためには、経験に加えてデータを活用した管理が必要であると考えた。
私が担当する遊砂地整備工事では、現場全体で10～20名の作業員が従事している。その中でも土砂搬出時には約10台のダンプが片道約５km（往復約10km）の運搬を繰り返しており、運搬ルートには民家が近接する道路や狭隘部、見通しの悪いカーブ、高齢者や児童が利用する通学路が含まれている。そのため、現場内だけでなく、運搬中を含めた安全管理が重要な課題となっていた。
従来は、ダンプの運行状況を確認するため、現場監督が１日約60分をかけて運搬ルートを巡視していた。しかし、巡視中は現場を離れることになるため、本来重点的に実施すべき現場内の安全確認や作業員への指導に十分な時間を確保することが難しかった。また、土砂と転石が混在するため積載重量を目視で判断することには限界があり、ダンプ自重計確認後、過積載が判明した場合には積み直しが発生することもあった。これらは施工効率を低下させるだけでなく、重機やダンプの不要な動きを増やし、接触災害のリスクを高める要因となっていた。
そこで、GPS運行管理システム「Smart Construction Fleet」とICTバックホウのペイロードメーターを導入した。Smart Construction Fleetでは、全車両の位置情報や運行状況を事務所のパソコンからリアルタイムで確認できるため、巡視時間を１日約60分から０分へ削減することができた。また、バックホウのオペレーターもダンプの接近を事前に把握できるようになり、積込み準備を効率的に行えるようになった。その結果、ダンプの待機時間は約30％削減され、有効稼働時間は１日当たり約60分向上した。さらに、ペイロードメーターにより積込み中に重量をリアルタイムで確認できるようになったことで、過積載による積み直しは０件となり、不要な車両や重機の動きも削減することができた。
私が最も効果を感じたのは、「精度を維持したまま管理の手間を減らせたこと」である。DXによって現場監督の仕事が減ったわけではない。巡視などの確認作業をデータが補うことで、削減した時間を現場内の安全確認や危険箇所の点検、作業員とのコミュニケーションなど、本来最も重要な安全管理に充てられるようになったのである。安全管理は人だけでも、システムだけでも成り立たない。経験に基づく判断と、リアルタイムデータによる客観的な情報を組み合わせることで、より確実な安全管理が実現できると実感した。
今後、建設業では担い手不足や高齢化がさらに進むことが予想される。そのような中、安全管理の質を維持・向上させるためには、人の経験をDXで支えるという考え方がますます重要になると考える。私はこれからも新しい技術を積極的に活用し、安全と生産性を

両立した現場づくりに取り組み、誰もが安心して働ける現場を目指していきたい。

【優秀賞】

最新技術の活用と技術進歩による不安

若生工業株式会社　大山　純

早いもので、建設業にたずさわり30年が過ぎた。利便性に長けたアプリやソフトがあふれる中で知識、使用方法を含めた自分自身のアップデートが必要となっている。

しかし、最新技術を認識、活用することで、現場の施工はさることながら、安全対策で活用することで、今まで以上に安全対策を行える様になった。以前、私が担当した工事の対策について紹介する。この現場は砂防ダムの改築工事で、老朽化した砂防ダムを補強することが目的であった。

実際に取り組んだ事例をここで紹介する。

①土砂災害対策。近年多くなっているゲリラ豪雨による土石流の対策だ。現場作業員等の避難経路、場所の確保として、現地の地形をスキャンし、過去10年の降雨量等を考慮した上で、土石流が起きた場合を想定した、ＣＧ動画を作成して避難経路や場所を決定し、避難ルートを認識しやすい様に案内看板、経路標識、トラロープを設置する事で誘導しやすいように整備した。周知の方法として新規入場時、安全訓練時（１回/２月）に動画で避難ルート、場所を視聴してから、現地で避難訓練を行った。これまでは、図面や写真を見ながら、口頭で説明していた事を、実際の現場で予想される土砂災害を動画で視聴できる為、現場で働く関係者も、実際に起こりうる災害に恐怖し、避難する意識が強まり、以前は形式的に参加していた避難訓練にも緊張感が増し、積極的に参加するようになった。

実際に土石流や土砂崩壊が起きた場合にすぐ避難できるよう、少しでも土砂が動いた場合に回転灯やサイレン、各職長にメールで知らせる傾斜計を３箇所に設置した。

②重機災害対策、法面の掘削の際には、無人バックホウを使用し、遠隔操作で重機作業をすることにより、落石や土砂崩壊、機械の転落があった場合の人災の防止に取り組んだ。

③交通災害対策、資材の運搬ルートは、AIにより過去の事故情報や運搬時間等を学習し、選定された安全かつ最短の走行ルートとした。併せて、車両の管理はリアルタイムで位置等を確認できるソフトを使用した。

④熱中症対策、リストバンド型のデバイスを現場で働く関係者全員に装着し、個々に健康状態をリアルタイムで確認できるものを使用した。

上記の他にも自らが認識している最新技術を様々使用したが、他にも新しい技術がまだまだあると認識している。

しかし、人命尊重の理念を掲げる現場の安全管理においては、最新技術だけでは無く、私が30年前に建設業に携わる以前からあるＫＹ活動や自らの目で見る仮設施設や機械等の点検、そして、人から人へ紡がれるヒヤリハットをはじめとする先人の知恵や経験を活かしながら行うものもあり、守らなければいけない貴重な糧である。これらの物は昔のやり方が残りつつ、その中でリスクアセスメントの取り入れや、電子製品の使用、同じことをやるにしてもアップデートして行っているものもある。

最後に、この「安全に関する論文」を書くことになり感じたことは、古典的な考えかもしれないが、最新技術は便利な上、安全性も高まり、管理もしやすくなっている、これから先、ますます技術の進歩が加速し、ＡＩや機械等に頼り切りになり、人命の尊さを管理する度合いが自分で判断することができなくなるのではという不安がある。

技術の進歩には数々の失敗と、事故、災害、その中には物損事故、怪我や死亡事故等があり、実際の経験がそれを活かして考えた結果、現在の最新技術が生まれたと思う。

この先、ますます技術は進歩し、どのような最新技術がでてくるのか楽しみでもあるが、不安もある。今の時点では、自ら安全について考え、最新技術を活かし、一番に人命尊重を重んじる安全管理を行い、自分自身のアップデートに勉めたいと改めて思える良い経験になった。

【優秀賞】

安全について考える

株式会社深松組　稲崎　淳

建設業における事故災害として「墜落・転落、崩壊・倒壊、建設機械・クレーン災害」の三大災害が一般的に挙げられます。近年、個人的に印象に残っている災害は、昨年１月に報道等で連日取り上げられた「八潮市道路陥没事故」であります。既存の大口径下水道管の一部が破損し、破損箇所から道路直下の土砂が吸い出されて空隙が発生し、これが原因で道路が陥没した事故でありました。不幸なことに、この陥没の瞬間に大型車両が巻き込まれ陥没箇所に車両ごと転落し、運転手が亡くなる痛ましい事故でありました。大口径管であったことが要因で陥没範囲が徐々に拡大し、周辺施設まで巻き込んだ。復旧現場はまるで大規

模な施設の建設現場かと思うほど、周辺の環境を劇的に変化させてしまいました。本来であれば我々の生活を支える重要な施設である下水道管の破損により人命が奪われるなど、本末転倒の出来事であったと思います。現在も復旧現場周辺は臭気や錆びが発生するなどの問題を抱えながら長い復旧工事を行っています。八潮市の事例は大口径により影響範囲も広く、連日報道された事もあり知名度が高いですが、規模は小さくとも道路陥没事故は頻繁に全国的に発生しているのが現状で、全国の何処かで陥没が発生したと言う、報道を連日のように見ている様な気もします。弊社においても道路緊急対応の業務を実施していますが、昨年度の夏場に掛けて特に発生件数は多かったです。

次は直接建設業とは関係はないかもしれませんが「熊」の獣害も連日報道されています。太陽光発電施設の建設増大により行き場を無くした熊が人里に降りて来たなどと言った考察もありましたが、定かではありません。実際に現場周辺で立ち寄る箇所に熊が出た事もあり、近年何か安全について注視する範囲が変化してきているようにも感じます。山間部の現場においては熊除けの道具も設置するなど対策が考えられています。道路陥没に関しては、私は建設業に従事して30年になりますが、入社当時は道路や雨水幹線の新設工事などが多く、維持管理工事はそこまで多くなかった様な記憶があり、東日本大震災以降に維持管理工事が特に増大した印象があります。

維持管理工事については自身が経験した一例で挙げると、特に下水道工事が地域住民視線で見た場合に何の工事かが解り難いと言う点で、内容を理解して頂くまでが特に難しい一面があったと感じました。更生工法などは開削無しで行う為、工事車両が停車しているけど作業状況は直視できませんので、進捗も理解し難く着手前の事前説明で工事内容を理解して頂く事が特に重要になります。八潮市の事例を説明すると、そこで初めて工事の内容について理解して貰えたりと日々進捗が視覚的に解りやすい新設工事と比較して維持管理工事は進めて行く上での難しさを感じました。何を行っているかが解らない・伝わらないと、工事＝騒音のイメージなどがあり苦情発生の一因となり、進めて行く上で障害となってしまいます。今後は住民目線で工事の内容について理解して頂く事を念頭に丁寧な対応をしていきたいと思います。

【優秀賞】

重機災害における安全管理

日建工業株式会社　木村　公哉

重機災害防止

建設現場や土木工事において重機は不可欠な存在ですが、その一方で重大災害につながる危険性を常に伴っている。特にバックホウやブルドーザー、移動式クレーン、ダンプトラックなどは重量が大きく、死角も多いため、ひとたび事故が発生すると重大な人身災害につながりやすい。そのため、重機災害を防止するためには、作業計画の作成、安全教育、作業環境の整備､日常点検などを総合的に実施することが重要です。

まず重要なのは、作業開始前に適切な作業計画を作成することです。現場の地形や地盤状況、使用する重機の性能、作業範囲、作業員の動線などを事前に確認し、危険箇所を明確にしておく必要があります。特に重機と作業員が接近する場所では、接触災害の危険が高まるため、人と重機の作業区域を明確に分離しなければならない。また、重機の移動経路や旋回範囲を事前に定め、無関係な作業員が立ち入らないようカラーコーンやバリケードなどを設置することも有効です。

次に、誘導員の配置と合図の統一も重要である。重機の後退時や狭い場所での作業では、オペレーターだけでは周囲の安全確認が十分に行えない場合があります。そのため、誘導員を配置し、決められた手信号や無線によって安全確認を行う必要があります。しかし、合図が統一されていないと誤認による事故が発生する恐れがあるため、作業前の打ち合わせで合図方法を周知徹底することが求められます。オペレーターは、少しでも危険を感じた場合には直ちに作業を停止し、安全確認を優先しなければならないと思います。

さらに、重機の死角対策も欠かせないと思います。重機には構造上確認しづらい場所が存在し、特に後方や側面では作業員を見落としやすいです。そのため、バックモニターや接近警報装置、回転灯などの安全装置を積極的に活用することが望ましいと考えられます。また、作業員自身も重機に近づきすぎないことを徹底し、「重機の旋回内には入らない」という基本ルールを守る必要があると思います。

重機の転倒災害防止も重要な課題である。軟弱地盤や法面付近で作業を行う場合、地盤沈下や崩壊によって重機が横転する危険があり、そのため、事前に地盤調査を行い、必要に応じて敷鉄板を使用するなどの対策を講じなければならないと思います。また、法肩付近では十分な離隔距離を確保し、雨天後には地盤の再確認を行うことが必要である。加えて、重機の定格荷重を超える無理な作業を行わないことも基本です。

日常点検の徹底も災害防止に直結する。始業前にはブレーキ、警報装置、油圧機器、ワイヤ、履帯などを点検し、不具合があれば直ちに修理を行う必要があります。機械の異常を放置したまま使用を続けることは重大事故につながるため、少しでも異常を感じた場合には使用を中止する判断が重要です。

最後に、安全教育と危険予知活動を継続的に行うことが大切です。重機作業は経験だけに頼るのではな

く、常に危険を予測し、安全意識を高めることが求められます。毎日のKY活動やヒヤリハット事例の共有を通じて、現場全体で安全意識を高めることで、重機災害の防止につながるのではないかと思います。

【優秀賞】

私が考える 現場の安全を守るための方法

清水建設株式会社 東北支店 土木技術部　内田　莉菜（社員の子）

私のお母さんは建設会社で働いています。昔は土木の現場で働いていましたが、今は土木技術部で働いています。現場が困っていることを解決したり、良い建物を作るために検討したりしています。一か月に何回も遠い現場に行くこともあります。

ある日お母さんから「建設業の安全」について作文してみないかと言われました。私は作文が苦手ですが、お母さんの仕事について知りたいと思って、やってみようと決めました。





私は、建設業についてよく分からないため、実際に見てみることにしました。6月に仙台市役所の建て替え工事現場にある「こども現場プロジェクト」に行きました。そこでは、どんな工事なのか、働く人の安全を守るためにどんなことがあるのかを紹介するところでした。私と弟は、腰ベルト式の安全帯とフルハーネスの安全帯を付けてみました。どちらもとても重かったです。私はフルハーネスを付けた状態で大人の人に吊り上げてもらいました。吊り上げられて痛いと思うところは無かったです。お母さんが現場にいたときは、腰ベルト式の安全帯だったと言っていました。腰ベルト式は、落ちた時にお腹に大きな衝撃があるため、今はフルハーネス式になっていると聞いて、安全を守るものが進化しているんだなと感じました。今はAIがあるので、どんどん進化していき、いつか建設業での事故が無くなるのではないかと私は思い、お母さんにそう言いました。でも、お母さんは「建設業で事故を無くすのはとっても難しいと思うの。人間は必ず間違うから。ヒューマンエラーはなかなか無くせないのよ。お母さんも自分でも分からないけど、無意識に動いちゃうことあるから。でも、そういったことが起こらないようにお母さんたちは現場を厳しく管理しているのよ。」と言っていました。無意識という言葉を聞いて、以前お母さんとりんご飴を作っていた時を思い出しました。砂糖液を温めていた時、お母さんはなぜか砂糖液に指を入れて、火傷してしまいました。隣にいた私もびっくりして「なんで熱いのが分かっているのに、指を入れたの？」と聞いたときに、「お母さんも分からないけど、なんか手が動いちゃった。」と言っていました。無くせない事故があったら、こういった無意識の行動にあるのではないかと思います。また、無意識の行動の時に「あぶない！とまれ！」という声かけがあれば、事故が無くなるのではないかと考えました。実は、私が修学旅行で白虎刀に筆で色を塗っている時、机に置いていたお気に入りのマスコットの目をその筆で塗ろうとしてしまいました。隣にいた友達に「何しているの？！やめなよ！」と言われて、ハッと気づいて止まることが出来ました。よく考えると、マスコットの目を塗ればマスコットが汚れて、確実に変になることはわかっているのに、その時の私は先のことを考えずに「この色いいなぁ。」と思って、塗ろうとしていたのです。声をかけてくれた友達にはとても感謝しています。

このような経験から、私が思う建設業の安全を守るために次のことを考えました。

①周りの人から声かけが一番大事。AIも便利ですが、感情が乗っている人間からの声掛けの方が良いと思います。

②AI技術でヘルメットに脳波を感知するシステムを入れて、危険作業をしそうなときはアラームを鳴らして、自分が危ないことをしようとすることを気づかせます。

③この作業はこんな危険があるというのを目の前で、かつ映像で確認して危険を認識してもらいます。

④事故が発生しても生き残れるような甲殻スーツの開発

お母さんに話すと、「②～④はこれからの技術開発で実現するかもね」と言っていました。これからの開発に期待します。

作文をきっかけに、建設業について少し興味が出てきたので、今度はお母さんが担当する現場に行ってみたいなと思いました。

「命より大切なものはない」ので、安全に関わる技術が進化して、いつまでも元気に働ける建設環境になって、現場で働く皆が笑顔でお家に帰れるようになってほしいです。

【優秀賞】

風通しの良い現場環境づくりのために若手ができること

五洋建設株式会社 東北支店　八木澤　武蔵

建設現場におけるスローガン「安全第一」の本当の重みや具体的なアプローチは、工種や地域環境によって大きく変化する。私は入社１年目に名古屋のトンネル現場、２年目秋からは九州の島しょ部のトンネル現場で施工管理の基礎を学び、３年目以降は東北で橋梁下部工や双葉・浪江地区の解体・除染工事に従事している。

地下の狭い空間から広大なヤード造成、そして放射線リスク管理へと現場が変わる中で、安全に対する視野は大きく広がった。５年目を迎えた今、キャリアの原点であるトンネル工事を振り返り私が最も重要だと感じる安全の軸は、ルーティン化された作業の中に潜む「慣れ」をいかに打破するか、そして若手である自分がどう動くべきか、という点にある。トンネル現場は一連の施工サイクルがシステム化され、昼夜を問わず繰り返されるが、作業が順調に回り「いつも通り」という雰囲気が生まれた時にこそ危険が潜む。人は仕事に慣れるほど、基本動作を省略する「近道行動」に走りやすく、狭隘な切羽付近での合図の省略や確認不足は命に関わる重大災害に直結する。

加えて、勤務地が変わる中で職人の気質や安全観の違いにも直面した。経験の浅い自分が教科書通りの指示を一方的に伝えるだけでは、現場に根付いた「慣れ」は崩せないと痛感した。そこで私は、トンネルでの学びを基に、現在の東北の現場で二つの取り組みを実践している。

第一は、「施工サイクルの変化点に着目した、先回り型のKY活動」である。管理者が湧水の変化や前日の雨による足場の滑りやすさなど、「いつもと違う」兆候をいち早く見つけ出し、その日の作業内容やタイミングと結びつけて職長に具体的に伝えることで、形式的な注意喚起ではなく、「今日だからこそ危ないポイント」を共有するよう心掛けている。こうした具体性のある情報提供は、現場の緊張感を引き締め、「慣れ」や「油断」に歯止めをかける効果があると感じている。

第二は、「若手ならではの親しみやすさを活かした、風通しの良いコミュニケーション」である。ベテラン作業員に対して威圧的に振る舞うのではなく、自ら作業員の輪に入り、日常の雑談から現場の「やりにくさ」やヒヤリハットを吸い上げることを意識している。作業手順のどこが面倒で省略されがちか、どの場所での作業が危険だと感じているかなど、現場のリアルな声を拾い上げることで、作業員が「違和感を気軽に話せる」雰囲気づくりにつなげている。こうした環境は、作業員のヒューマンエラー発生への最大の抑止力になると信じている。

施工管理５年目は、判断に一層の責任が伴う過渡期である。一方で、これまで各地の現場で多くの先輩や職長から教わったことは、私にとって何にも代えがたい財産である。「安全」とは、単にスローガンを掲げることではなく、現場にいる全員が「今日も無事故で、笑顔で家に帰る」という同じ目標を共有し続けることで初めて達成できるものだ。

私は今後も、トンネル現場で学んだ「慣れの怖さ」を忘れず、若手らしくエネルギッシュに現場を動き回りたい。そして、変化点に敏感な目と、風通しの良いコミュニケーションを武器に、全員が当たり前のように声を掛け合える最高の現場環境をつくり、「安全第一」という言葉の重みを行動で示せる技術者へと成長していきたいと考えている。

【優秀賞】

無事故・無災害と５S活動

株式会社安藤・間　鈴木　理紗

土木工事の施工管理に携わり３年目を迎えた私は、日々の現場管理において無事故・無災害を達成するためには、安全設備や保護具の整備だけでは不十分であることを痛感している。重要なのは、作業員一人ひとりの安全意識と日常的な行動習慣である。その基盤となるのが５S活動であり、本稿では５Sと安全管理の関係性について、現場での実践経験をもとに考察する。

労働安全衛生法第25条では、「事業者は労働災害を防止するため必要な措置を講じなければならない」と定められており、５S活動はこの予防措置の基本となる取り組みである。

５S活動の各要素は、以下のように災害防止と直結している。

「整理」：作業エリアおよび歩行者通路から不要な資材・工具・仮設材を撤去することで、つまずきや転倒災害を防止し、高所からの落下物や飛散物のリスクも低減できる。

「整頓」：資材・工具を定位置に管理することで、探索時間の削減と作業効率の向上が図れる。焦りや慌てた行動が原因となる不安全行動を未然に防ぐ効果がある。

「清掃」：型枠解体や脱型作業後に発生する釘、木片、鉄筋切断材などの小片を速やかに除去することで、釘踏み抜き災害や転倒事故を防止する。

「清潔」：整理・整頓・清掃を継続的に実施し、安全な作業環境を維持する。一時的な取り組みではなく、仕

組みとして定着させることが重要である。
「しつけ」：安全ルールや作業手順を遵守する習慣を身につけることで、安全意識が個人レベルから組織全体に浸透する。

現場巡視中に作業エリアを区画するカラーコーンが数センチずれている箇所を発見した。些細なことではあるが、その場で整列し直したところ、現場の見た目が引き締まり整然とした印象に変わった。この経験から、「小さな乱れを見逃さない姿勢」が現場全体の安全意識向上に繋がることを実感した。

一方で、私自身の課題も明確になった。毎日現場を巡視しているにもかかわらず、上司が巡視した際には私が見落としていた不備箇所を複数指摘された。具体的には、通路脇に放置されていた廃材や、資材の置き方のわずかなずれなどである。「見ているつもり」と「見えている」には大きな差がある。

同じ現場を見ても、経験豊富な上司は潜在的な危険や５Sの乱れを的確に発見する。この経験から、５Sの実践には「観察力」と「基準の明確化」が不可欠であると学んだ。

整備された現場環境は作業員の規律意識を高め、結果として不安全行動の抑止につながる。５S活動は単なる清掃活動ではなく、労働災害防止の基盤となる安全管理手法であり、安全を見抜く目を養う訓練である。今後も継続的な学びと実践を通じて、一人前の施工管理者を目指したい。

５S活動を通じて、無事故・無災害の現場を実現するためには、日常的な観察力と継続的な改善姿勢が不可欠である。施工管理３年目の私にとって、５S活動は安全管理能力を高める重要な訓練の場となっている。今後も現場責任者として、５S活動を通じた安全文化の醸成に努め、全作業員が安心して働ける現場づくりに貢献していきたい

【優秀賞】

一斉清掃の必要性

西松建設株式会社　花釜　航平

建設現場は、様々な設備や資材が混在し、多数の作業員が行き交う極めて複雑な環境である。そのため、安全確保は何よりも優先されるべき基本命題であり、事故や災害の未然防止には、日常的な環境整備が不可欠である。中でも整理整頓と清掃は、安全管理の根幹を成す基礎的活動であり、それらを全員で集中的に実施する「一斉清掃」は、安全意識の醸成と潜在リスクの顕在化に資する重要な取組である。本論文では、一斉清掃の意義と必要性について論じる。

一斉清掃とは、一定の時間を設け、現場作業員全員が参加して不用品の撤去、廃材処理、動線の確保などを行う活動である。これは単なる環境美化にとどまらず、安全衛生管理の一環として、危険箇所の早期発見および是正を目的とするものである。更に、この活動を通じて作業員一人ひとりの安全に対する感度が高まり、日常業務の中では見過ごされがちな微細な危険の発見にもつながる点に大きな意義がある。

建設現場における労働災害の多くは、転倒・転落によるものである。その背景には、作業環境の乱れが深く関係している。資材や工具の放置、ゴミの堆積は歩行時の躓きや滑落のリスクを増加させる。したがって、整理整頓された現場は危険因子の除去につながり、災害発生率の低減に直結する。更に、清掃の過程で設備の劣化や損傷箇所を発見し、早期に対処できるため、二次災害の防止にも効果的である。

清潔で整理された現場は、作業の効率化にも直結する。必要な資材や工具が適切な場所に配置され、作業動線が確保されることで、無駄な往復や探し物に費やす時間を削減できる。その結果、安全意識の高揚に加え、働く環境への満足度やチームワークの向上にもつながる。

私が１年目に携わった現場では、こまめな清掃と定期的な一斉清掃を欠かさず実施していた。作業中は常に土のう袋を持ち、落ちているゴミを見掛けた際にはすぐに拾うことを日常の習慣とし、現場全体の整理整頓に努めた。その結果、無事故・無災害で竣工を迎えることができた。この経験は、「清掃を怠らなければ事故は未然に防げる」という実感を強く刻みつけたものである。

また、当時の所長から「清掃をすることで現場がきれいになり、ケガの発生を防げる」「現場が汚れていると足元が悪くなり、ケガの危険が増すため、清掃は非常に重要である」との教えを受け、安全管理の本質を示すものとして認識をより深めることができた。

一斉清掃の推進に当たっては、実施時間の確保と清掃の質の維持が課題である。多くの作業員は真面目に清掃に取り組んでいるものの、一部には清掃を行わずに作業に入る者も見受けられる。また、現場の工程が逼迫すると、清掃に十分な時間を確保できず、活動が形骸化する傾向もある。これらの課題に対しては、施工計画段階で清掃時間を組み込み、指導者が率先して指導・管理を行う体制の構築が必要である。更に、清掃内容を具体化したチェックリストの活用により、清掃の質を均一化することも有効である。

施工現場の安全は、最終的には一人ひとりの意識と行動に依存する。現場全員で実施する一斉清掃は、安全に対する共通認識を醸成し、小さな危険の早期発見と対応を可能にする重要な活動である。安全で効率的な作業環境を維持するためには、継続的な一斉清掃の実施と、その質の向上に今後も注力していく必要がある。

【優秀賞】

安全性向上に向けた「前例踏襲の取扱い」の見直しについて

仙建工業株式会社 福島支店　伊藤　宏大

2025年度 当社では冬期機械除雪作業中に事故事象が連続して発生し、その都度、関係者からの聞き取りや現場確認､発生に至るまでの要因等を究明しながら、繰返し発生の防止に向け取組んできた。

それぞれ発生原因は異なるが、私が考える共通項として、「今まで通り」や「過去に倣う」といった、『前例踏襲の取扱い』が事象発生の要因であり、従事者の過去成功体験により、心理・判断・取扱い等を惑わす原因となった。

会津若松地区は豪雪地帯であり、列車運行に支障を及ぼさないよう、連日連夜、線路上の機械除雪作業を実施しており、雪を線路外へ掻き出す又は投雪する機械操作は操縦者・運転者が行っている。大前提として、予め発注者から機械除雪操作可能区間・禁止区間の台帳を受領し、我々は台帳通りに機械除雪を行わなければならない。

2025年12月11日、従事者は「今まで通り」の取扱いを綿密に打合せし機械除雪を実施していたところ、線路脇の橋梁手摺にウイング（手動操作による機械可動部）が接触する輸送障害（列車運休２本）を発生させた。

事象発生箇所は発注者から受領した台帳では、機械除雪操作禁止区間となっていたにも関わらず、過去何年も前から機械操作を実施していたことが発覚した。機械操作を行わなければ、除雪機械が前進できない、脱輪の恐れがあるといった現場実態と台帳が乖離し、従事者は当たり前のように機械操作を実施していた。しかも、当該区間の機械除雪操作禁止区間延長が５㎞以上もあり、同区間を当たり前のように機械操作を実施していたのだ。

以上のことから、2026年度冬期に向けて、現場状況に見合った機械除雪操作禁止区間の選定や台帳の見直し、また従事者全員へ改正内容を指導するなど、あらたな安全最優先の取扱い定着に向けて、関係者と連携しながら取組でいる。

2026年度は当支店管内の組織目標の１つに、『前例踏襲の取扱い』の脱却を掲げている。線路メンテナンス工事は先人の経験と技術継承により､現在に至る。一方、「今まで通り」に危険が潜んでいることも意外と多い。今後、発注者へ提言しながら現場実態に即したルール・取扱いとなるよう、改善・見直しを支店・出張所・協力会社一体となって進めていく。

【優秀賞】

「言語」に依存しない安全管理についての提案

株式会社フジタ　中嶋　大翔

私は入社２年目の内勤職員です。１年目は新築ホテル建設現場に配属され、現場管理業務の補助を行っておりました。配属当初、上司より「新入社員は一般的な感覚に近い安全意識がある。現場にいる間は特に安全に注視し、改善点があれば提案してほしい」との指示を受けました。本稿では、その言葉を指針として､現場経験を通じて感じた課題とその改善策として、DX化による視覚的情報の伝達と、情報の正確性の保持を提案します。

配属先の現場には多数の安全標識が掲示されており､安全管理が行き届いた環境であったと感じました。特に、デジタルサイネージを活用してWBGT値（暑さ指数）をリアルタイムで表示する取り組みは、熱中症リスクを視覚的に伝達する有効な取り組みであったと思います。作業者は熱中症リスクを即時に把握し、体調や休憩のタイミングなどを判断することができます。このような危険情報の可視化が安全管理の重要なポイントであると感じました。

一方で、現場の多様化に伴い、海外からの技能実習生に対する安全情報の共有方法を改善する必要があると考えました。現状の安全標識は日本語を中心に構成され、漢字を多用した表現が一般的です。そのため、日本語の理解が十分でない作業者にとっては内容の正確な理解が困難となる可能性があります。一人作業の禁止といった基本ルールが整備されていたとしても、事故は一瞬にして発生するため、日本語による注意喚起の内容が理解されなければ事故の防止には直結しません。安全対策においては､単なる掲示にとどまらず、「理解されること」を前提とした設計が不可欠です。

この課題に対する有効な方策として、デジタル技術の活用を提案します。例えば、回転工具など事故リスクの高い工具について､持ち込み許可シールを発行し、そこにQRコードを記載して、読み取りによって取扱い方法や社内基準を動画や図で確認できる仕組みを導入することを考えました。これらの情報伝達は言語に依存せず､視覚的に情報を伝える手段として有効です。さらに、過去の災害事例や頻発事故についても同様に閲覧可能とすることで､危険の具体像を共有できます。実例に基づく情報は口頭での注意喚起よりも具体像が得られ、安全意識の向上に寄与します。これらの施策は現状の技術水準や、周知すべき過去事例の量から、十分に実現可能であると考えます。一例として工具を挙げましたが､同様の技術は様々な箇所に活かせます。

加えて、情報伝達の正確性確保も重要な課題です。現場では朝礼を通じて注意事項が周知されますが、職長を介した「伝言ゲーム」のような伝達過程において正確な内容が伝わらない可能性があります。実際に、当日立入禁止とした区域について、情報が十分に共有されず、作業員が当該区域に立ち入る事例を経験しました。本件は災害には至りませんでしたが、重大な事故になり得た事例です。不正確な情報伝達は安全管理上の重大な問題です。正しく伝わらなければ、伝える意味がありません。

この課題への対応として、メッセージアプリの活用を提案します。朝礼で共有された注意事項を文章や、当日の作業配置図に示した画像データとして職長へ直接送信することで、伝達内容の統一を図ります。統一された内容を基に作業員への周知を実施してもらうことで、伝達過程における情報の変化を防ぎ、認識の齟齬を防止します。情報の正確性を担保する取り組みは、安全性向上に直結します。

結論として、安全管理の本質は「言語による理解」から「個人の能力に依存しない理解」へシフトするべきと考えています。私が配属されていた現場にも、海外からの作業員さんが多数おりました。言語能力に依存する安全管理はやや不安が残ります。言語能力に依存しない手段として、今や誰もが持っているスマートフォンを活用した視覚で理解できる安全管理を提案します。

【優秀賞】

慣れと遠慮が招く危険性

福田道路株式会社 仙台営業所　林　玲嘉

建設現場では、重機作業や車両運行など多くの危険が存在しており、労働災害を防止するためには一人ひとりが安全意識を高く持って行動することが大切である。私自身、現場監督になって３年目になり、現場の流れや作業内容が少しずつわかるようになってきた。しかしその一方で、現場での慣れや油断から危険に対する意識が薄れていたと感じる経験があった。

私は舗装打替え工事の現場を担当することが多く、当日も過去の経験に基づき、通常通りの手順で作業を進めていた。バックホウを使用して舗装版撤去及び積込み作業を行っているとき、私は状況写真を撮り終え作業の邪魔にならない場所に避難した。しかし、積込んでいるダンプの近くに立ち入ってしまっており、現場従業員の方から「そこは危ないよ」と声をかけられ、自分が危ない場所に立っていることに気が付いた。バックホウの旋回範囲を避け、作業の邪魔にならない安全な場所に避難したつもりだったが、舗装版が落下する危険性のある位置に立ち入ってしまっていたのだ。私は、「安全な場所」よりも「邪魔にならない場所」を意識してしまい、周囲の安全確認が不十分だった。

また、女性現場監督として現場に立つ中で、周囲から気を遣われる場面も多く、自分から現場従業員の輪に入りづらいと感じることがあった。その影響もあり、確認したいことや危険に感じたことがあっても遠慮してしまい、積極的な声掛けや注意喚起をためらう場面があった。加えて、自分の声が通りにくいという苦手意識があり、「話しかけても相手に聞こえないのではないか」「若手の意見として受け入れられにくいのではないか」と考えてしまうこともあった。

しかし、安全管理において遠慮や思い込みは危険に繋がる要因になりうる。現場では、小さな違和感や不安であっても共有することが事故防止につながるため、立場や性別、経験年数に関係なく声を掛け合える環境づくりが重要であると感じた。また、安全な環境づくりには、コミュニケーションも重要であり、周囲との関係性を深めることで声掛けや確認もしやすくなると私は思う。このことから、今後は遠慮しすぎることなく、自分から積極的にコミュニケーションを取り、現場監督として現場全体の安全意識を高められるように心掛けていきたい。

今回の経験を通して、私は「いつも通りだから大丈夫」という慣れや油断が安全意識を低下させていたことに気が付いた。危険を回避しているつもりでも、自分では気付かないうちに危険範囲に立ち入ってしまうことがある。今後は「作業の邪魔にならない場所」ではなく、「安全が確保された場所」であるかを意識して行動したい。特に、現場監督という立場である以上、まずは自分自身が誰よりも安全に対する意識を高く持ち、率先して安全行動を実施することが重要であると感じた。また、「女性だから」「若手だから」と遠慮するのではなく、不安全行動に気付いた際には積極的に指摘し、危険なことは危険であると伝えられる現場監督になりたい。「言いづらい」「聞こえないかもしれない」といった理由で注意できない自分に言い訳をせず、事故が発生してからでは遅いという意識を常に持ち、安全絶対主義を徹底して行動していきたい。

【優秀賞】

いつも安全を願って

大林道路株式会社 東北支店　田口　幸（社員の妻）

「いつも安全を願って」

「行ってらっしゃい。気を付けてね。」

毎朝、主人が仕事に出かける時、私は必ずこの言葉で見送るようにしています。どこの家庭でも交わされている、ごく普通の挨拶かもしれません。でも、私が

この短い一言に込めているのは、ただの習慣ではなく、主人の体を心配する二つの強い願いです。

一つは、車を運転する時の安全です。家から会社へ、そしてそこから現場へと移動する道中で、絶対に交通事故に遭わないよう、しっかり集中して運転してほしいという思いです。主人が単身赴任をしていた頃は、遠く離れた秋田の家から心の中で念じることしかできませんでした。だからこそ、またこうして毎朝、玄関で主人の背中を見送って直接声をかけられる毎日に、とても幸せを感じています。

もう一つは、主人が働く建設現場での安全です。主人の仕事は、大きな重機がすぐ近くを動き回り、高い足場を行き来する、一歩間違えれば大ケガにつながる危険な場所です。だからこそ、現場に入ったら周りのみんなと声を掛け合って、とにかく安全第一で仕事を終え、無事に家に帰ってきてほしいと強く願っています。

普段、私は主人が実際に働いている姿を見ることはほとんどありません。でも、ニュースや新聞で高速道路の工事や、山奥での大変なインフラ工事、能登半島地震の復興作業などの様子を見るたびに、主人の仕事の大切さと、責任の重さを改めて実感します。

こうした厳しい現場では、一人ひとりの安全意識はもちろん、みんなが呼吸を合わせてチームワークを大事にすることで、初めて安全が守られるのだと思います。だから主人だけでなく、一緒に汗を流して働く職場の皆さんが、お互いに「目配り、気配り、心配り」を忘れず、全員が元気に安全に仕事を進めてほしいと心から願っています。

夕方になると「今日も無事に仕事が終わったかな」と時計を気にするのは今も変わりません。でも、夜になって玄関のドアが開き、「ただいま！」と元気な声が聞こえると、本当にホッと胸をなでおろします。

また、主人が万全の状態で毎日の危険な仕事に向き合うためには、一番近くにいる私による健康管理のサポートが欠かせないと思っています。

私たちの暮らす秋田県には、昔から塩分を摂りすぎてしまいがちな地域特有の食習慣があります。普段からしょっぱい味付けを好む傾向があるので、主人の毎日のごはんには特に気を配るようにしています。単身赴任をしていた時期は、どうしても外食やコンビニのお惣菜が増えて、栄養の偏りが心配でたまりませんでした。でも、また一緒に暮らせるようになった今は、私がキッチンに立って、主人の健康を考えた手料理を作ることができます。「塩分や糖分、油っこいものは控えめにして、バランスよく」を意識しながら、薄味でも美味しく食べてもらえるように毎日工夫をしています。

これから夏になると厳しい暑さが続くので、外での長時間作業による熱中症も心配です。出かける前には「喉が渇く前に、こまめにお水と塩分を取ってね」としつこいくらいに声をかけ、持たせる水筒の準備にも気合が入ります。

そして、厳しい現場で頑張る体力をキープするためには、しっかり休んでぐっすり眠ることが何より大切です。現場の状況によっては毎日決まった時間に寝るのは難しいかもしれませんが、家に帰ってきた時くらいは、思いきり心と体の疲れを癒やしてほしいです。そのために、お家の中をいつでも居心地のいい、リラックスできる空間に整えておくことを心がけています。

主人の心も体も健康で、ベストなバランスでいられること。それこそが、現場での事故をなくし、安全な毎日をつくる一番のエネルギーになると信じています。

あちこちの危険な場所で働く大変な仕事ですが、これからも毎朝、心を込めて「行ってらっしゃい」と送り出したいです。そして、元気に誇りを持って頑張ってほしいと、一人の妻として心から願い、これからも隣で支え続けていきます。

【優秀賞】

安全は全てに優先する

大成ロテック株式会社 東北支社　細川　将太

今から遡ること14年前になるが、2012年当時私はＮＥＸＣＯ東日本発注の「首都圏中央連絡自動車道東金舗装工事」の品質管理担当者として従事していた。長い工期の中で現場では多くの工事関係者や業者が行き交う中、労働災害が発生することなく完工することができたが、当時の私は自分の業務をこなすのに精一杯で安全そのものについて深く考えることが出来なかった。しかし、2024年に南関東支社管内の合材工場において品質管理担当者として従事している中、同じ部署の入社半年にあたる新入社員が労働災害を発生させてしまった。状況としては、「試験室内にて型枠から供試体を脱型する際に、裏のねじを外そうと型枠を立てたところ、持ち手が外れて型枠が倒れてしまい、右手人差し指を床と型枠の間に挟んだ。その後、救急車で搬送され右手人差し指骨折、裂傷（３針縫う）、全治１カ月との診断」であった。その時、私は同じ試験室内におり、監督者として作業を指導する立場であったにも関わらず事故を防ぐことができなかった。事故は夕方に発生したが、24時間稼働の工場の出荷は一時ストップし、所轄警察署による聴取が行われるなどして多くの従業員が帰宅できない状況となり、多方面に大きな迷惑をかける事態となってしまった。何より事故を起こしてしまった本人が痛みとともに精神的に一番ショックを受けており、しばらくの間ケガの治療とともに心のケアが必要とされた。

本社の安全環境部からのヒアリングでは多くの原因があげられる中、特に指摘、質問があったのは１．作業手順書に当該脱型作業について詳細が記載されていなかったこと、２．事前に手本として手順をデモンストレーションで一通り見せてはいたが、なぜ実際は異なる手順で作業を行い被災したのか、の２点であった。このことから作業内容の周知が徹底できていなかったこと、また作業手順を間違えるとどのような危険があるのかが理解させられていなかったことが厳しく指摘された。この労働災害では多くのことに気づかされたが、特に安全は最優先という概念からは、作業手順の周知、遵守、危険に対する意識を高くもつといったことが最も重要だと改めて認識させられた。先に述べたような規模の大きい工事の現場も含め、今まで周囲で労働災害が発生しなかったことが当たり前ではなく、安全を担当する人間の周到な準備・対策と、従事する人間の意識の高さによるものであったと痛感した。「安全」という状態は人間によって作られること、つまり「安全」は人間によって確保されることを改めて理解した。

現在私は東北支社管内の合材工場において品質管理担当とともに安全担当として従事している。合材工場は、高温状態の合材の品質確認、機械の稼働状況確認や重量物の運搬、高所作業、薬品の取り扱いなど、危険要因が多い職場で油断すると重篤な事故につながる可能性が高い。上記で述べたような労働災害を二度と起こしてならないといった強い決意で今後も取り組んでいく。

【優秀賞】

自分も周りも清潔に

株式会社ガイアート　宍戸　小夏

当社では、女性技術者・事務員によるパトロール（以下、女性PT）を定期的に行っている。その際に点検する項目は、部署長や協力会が行う安全パトロールとは大きく異なる。安全パトロールでは、主に、労働安全衛生法などの法律に基づいて、現場が動いているか、環境が整備されているかを点検する。一方、女性PTでは、身だしなみに関することや、現場事務所や休憩室、倉庫、トイレなどの清掃・整理整頓状況について確認する。この違いは、パトロールの目的が異なるためであり、女性PTの場合、女性だけでなく誰もが働きやすい環境づくりを目的として行っている。しかし、改めて考えてみると、身だしなみがきちんとしていることや現場全体に清掃・整理整頓が行き届いていることは、安全にもつながるのではないかと思う。

まず、身だしなみについては、きれいなヘルメットを着用している＝使用期限が守られており、定期的に交換していることが確認できる。また、靴のかかとをつぶして履いている＝靴が脱げやすく、躓きや転倒の可能性が高まるため、見かけたら指摘するべき事項である。

次に、現場だけではなく、事務所内の清掃・整理整頓ができているかについて、事務所では様々な書類が作成・保管されており、数も種類も多い。安全に作業を行うために必要な書類である作業手順書や特定作業計画書、入場者の緊急連絡先等が書かれている新規入場者の調査票や労務安全に関する届出書など、常時確認できるようにしておかなければならない書類が多くある。以上のような書類がどこにあるかわからない、保管場所が共有されていないという状態にならないために、整理整頓は必須である。そして、最後に、「部屋の乱れは心の乱れ」という言葉がある。これは心理学的にも科学的にも深い関係があることがわかっており、散らかった部屋は視覚から入る情報量を増やし、脳を常に過負荷な状態にすると言われている。また、整理されていない環境は、ストレス物質（コルチゾール）の分泌を促すことが研究で示されている。このことから、清掃・整理整頓が行き届いていない現場だと、心の健康に影響が及び、「現場の雰囲気が悪くなる→小さな気づき等を指摘し合えなくなる→不安全行動が改善されず事故が起きる」といった悪循環につながると考える。実際、きれいな状態を保っている現場（働きやすい環境）では事故は起きておらず、社員が笑顔で働いているところを女性PTで確認している。

現場が動いているなかで、身だしなみや事務所の清掃・整理整頓まで気を遣うのは大変だと感じることもあるが、日頃からこまめに見つめ直し、清潔な状態を保っていけるように努力したい。また、自分の担当現場はもちろんのこと、他現場への女性PTを定期的に実施し、社内全体の安全意識を高めることに尽力していければと思う。

発注者や外部の方から、「女性パトロールの効果は？」「女性パトロールは何のためにやるの？」など聞かれることが時折ある。当初は答えに困っていたが、今でははっきりとこのように答えている。「単に女性のために行っているものではありません。建設現場の当たり前を変え、誰もが気持ちよく働けるクリーンな職場環境を作ってもらうために行っています」と笑顔で答えるようにしている。

【優秀賞】

子どもから親へ「無事に帰ってきてほしい」という願い

株式会社NIPPO 三沢出張所　細井　心真（社員の子）

建設業界は、道路や建物など、私たちの生活に必要なものをつくる大切な仕事だと思う。その一方で、高い場所での作業や重機の使用など、危険が多い仕事でもあると感じている。私は、建設業で働く親をもつ子どもの立場として、「無事に帰ってきてほしい」という思いがどのように安全につながるのかを考えたい。

私の周りにも建設の仕事をしている大人がいるが、朝早く家を出て、夕方や夜に帰ってくる姿を見ると、とても大変な仕事だと感じる。そして、ニュースなどで現場の事故を知るたびに、「もし自分の家族だったら」と考えてしまい、不安になることがある。だからこそ、家を出るときには「気をつけて」と自然に声をかけてしまう。その一言には、「ケガをしないでほしい」「ちゃんと帰ってきてほしい」という気持ちが込められている。

建設現場では、安全のための決まりやルールがしっかりあると聞いている。でも、人は慣れてしまうと「これくらい大丈夫だろう」と思ってしまうこともあるのではないかと思う。忙しかったり、早く終わらせたい気持ちが強くなったりすると、確認がおろそかになることもあるかもしれない。そういうときに思い出してほしいのが、家で待っている家族の存在だと思う。特に子どもにとっては、親が帰ってくるのが当たり前で、その「当たり前」がなくなることはとてもつらいことだ。また、建設業界では人手不足や長時間労働の問題があるとニュースなどで知った。疲れていると集中力が落ちて、小さなミスが大きな事故につながる可能性があると思う。だから、会社がしっかり休みを取らせたり、安全教育を行ったりすることも大事だけど、働く人自身も「無理をしすぎない」という意識を持つことが必要だと感じた。その理由は、自分のためだけでなく、家族のためでもあるからだ。

私は、「おかえり」と言える毎日は、とても大事なことだと思う。普段はあまり意識しないけれど、それは決して当たり前ではないのかもしれない。家に帰ってきたときに顔を見られる安心感は、家族にとってすごく大きいものだと思う。「今日どうだった？」と聞いたり、「危ないことなかった？」と話したりすることも、小さいけれど大事なことだと思う。そういう会話があることで、安全について考えるきっかけになるのではないかと感じた。

結論として、建設業界の安全は、会社や現場のルールだけで守られるものではなく、働く人の意識や、その人を思う家族の気持ちも関係していると思う。特に子どもから親への「無事に帰ってきてほしい」という思いは、とてもシンプルだけど強いものだ。その気持ちがあることで、危ない行動をやめようと思えたり、しっかり確認しようと思えたりするのではないだろうか。

私たち子どもにできることは少ないかもしれないけれど、「気をつけて」「おかえり」と言うことは続けていきたいと思う。その言葉が少しでも安全につながるなら、とても大切な役割だと思うからだ。

【優秀賞】

一瞬の油断が生む悲劇を防ぐために

陽光建設株式会社　武者　高広

私たちが働く建設現場は、いつも危険と隣り合わせです。高所作業、重機の稼働、削孔作業など、一つひとつの作業に潜むリスクは数え切れません。私は現場代理人兼監理技術者としていろんな現場を見てきましたが、その中で強く感じるのは、事故というのは「気を抜いた時」よりも、「自分は大丈夫」と思った時に起きているということです。

現場で長く働いているベテランの作業員ほど、こんな言葉を口にすることがあります。「これくらい大丈夫だ」「今まで何十年もこのやり方でやってきた」という言葉です。その自信と経験は確かに貴重なものですが、同時に大きな落とし穴にもなり得ます。

ルールや手順というものは、過去に起きた事故や怪我の積み重ねの上に作られたものです。つまり誰かが痛い思いをした経験が、今のルールを生み出しています。それを「面倒だ」「非効率だ」と感じ「ちょっとくらい省略してもいいだろう」という考えは、過去の教訓を無駄にすることになります。

私が現場で目指しているのは、なぜそのルールが存在するのかを全員が理解した上で行動できる現場づくりです。しかしながら大半の人は「ケガをするやつは馬鹿なやつ」、「法面工事ではケガをするやつはいない」「自分は大丈夫」と思っている人が大半だと思います。もしくはわかってはいるけど「時間がないから」とか「会社から早く終わらせろ」と指示があったりでルールを理解しようとは考えている余裕がないというのが現状だと思います。

現場の安全教育において、よくあるのが「事故が起きたらどうなるか」という結果だけを伝えるアプローチです。しかしそれだけでは人の行動はなかなか変わりません。大切なのは、事故が自分自身の問題であると実感できるかどうかです。

たとえば法面からの転落事故を例に挙げると、困るのは本人だけじゃありません。その場に居合わせた同僚は深刻なトラウマを負うことがあります。現場は長期間停止し、会社は社会的信用を失います。そして事故を起こした本人の家族もまた、精神的・経済的な打撃を受けることになります。

一人の不注意が、これほど多くの人の人生に影響を与える。その現実を自分ごととして想像できるかどうかが、安全への向き合い方を根本から変えると私は考えています。

安全管理において、もう一つ重要だと感じていることがあります。それは、危険を感じた時に誰もが躊躇なく声を上げられる環境があるかどうかです。

現場では、新人だから言いづらい、若いから言えない、外国人だから伝えにくい、そういう空気がある現場は危険に気づいていても黙ってしまうことがあります。

どんな小さな気づきも、現場の安全を守る大切な情報になり得ます。経験の浅い人間の目線だからこそ気づける危険もあります。立場や経験年数に関係なく、誰でも安全に関する意見を言える雰囲気をつくることが、管理する立場の者の重要な役割だと感じています。

小さい違和感でも、声に出してもらい報告した行動を評価することで、現場全体の安全意識が高まり、事故を防ぐことにつながります。事故は起きてからじゃ遅いです。起きる前に止めることこそが理想の安全管理です。

最後に、自分も含めて管理する立場の人間が安全を軽く見たら、現場のみんなもそれを見ています。だからまずは上に立つ人間が本気で安全を大事にしないといけないと思っています。

安全管理に終わりはありません。現場の状況は日々変わり、作業員も入れ替わります。だからこそ、「これくらい大丈夫」をなくして安全への意識を高め続けることが求められます。そのためには、他者への思いやりと責任感を持って働ける現場を目指して安全管理に努めます。

【優秀賞】

ヒューマンエラーの本質を見据えた安全管理と、現場に信頼を築くアプローチ

五洋建設株式会社 東北支店　濱原　流真

建設現場における安全管理において、私たちは日々、リスクアセスメントの実施、KY（危険予知）活動など、多岐にわたる対策を講じている。しかし、どれほど高度な安全設備を導入し、精緻な計画を机上で組み立てたとしても、現場で実際に作業を行うのは「人間」である。人間は時として焦り、油断し、間違える生き物であり、このヒューマンエラーをいかにして未然に防ぐか、あるいはエラーが起きても重大な災害に至らせない環境をどうつくるかが、現場管理者に課せられた真の命題であると私は考えている。

私がこれまでの従事工事の中で特に強く意識してきたのは、労働災害の大きな要因となる「危険への慣れ」と「近道行動」の排除である。現場に配属された当初は誰もが緊張感を持ち、基本的なルールを遵守しようとする。しかし、日々の繰り返し作業の中で施工に「慣れ」が生じると、心理的な緊張感は徐々に緩んでいく。さらに、工程の遅れを取り戻したいという焦りや、いたずらな作業が重なったとき、「これくらいなら大丈夫だろう」という独断による手順の省略、すなわち近道行動が頭をもたげるのである。

こうした確信犯的な近道行動は、机の上の指示や書類の周知だけでは決して根本的な解決にはならない。そこで私が現場で実践し、紹介したい工夫は、形式的な注意喚起にとどまらない「双方向のコミュニケーション」と「心理的バリアの解消」である。不安全な行動を見かけた際、頭ごなしに叱責するだけでは作業員は萎縮し、自発的な安全意識は育たない。私はその場で作業の手を一度止めてもらい、「なぜその方法をとったのか」と雑談を交えながら徹底的に聴くようにしている。作業動線に不便な段差がある、資材の配置が悪く遠回りが必要であるなど、作業員側の「言い分」に耳を傾けることで、不安全行動を誘発していた現場環境の本質的な欠陥に気づかされることが非常に多いからである。

また、不安全行動を注意する一方で、確認の指差し呼称や整理整頓を徹底しているといった「当たり前の良い行動」に対して、現場で積極的に「褒める・認める」というアプローチを取り入れた。安全はやって当然とされがちだが、良い行動を元請が具体的に評価し、朝礼などで全体に共有することで、現場全体に「見られている意識」と「互いを思いやる空気」が生まれる。これにより、お互いに遠慮なく「ちょっと待て、危ないぞ」と声を掛け合える良好な信頼関係が構築され、不安全行動の連鎖を未然に断ち切ることが可能となった。

安全管理において、一瞬で状況を好転させるような方法は存在しない。災害防止の最も確実な近道は、決められた基本的な安全ルールを形骸化させることなく、地道に、着実に実行し続けることである。私はこれからも、現場で働く仲間一人ひとりの思いに向き合い、明るく意思疎通の図れる職場環境を全員で維持しながら、「全員が無事に笑顔で家に帰る」という当たり前でありながら最も大切な目標を、愚直に追求し続けていく所存である。

【優秀賞】

若手社員として取り組む安全管理とKY活動

東亜建設工業株式会社 東北支店　小笠原　弘樹

私は入社二年目の社員であり、ようやく現場で行われている施工管理業務や安全管理業務について理解できるようになってきた。これまで熱中症対策や開口部の明示、重機作業計画書の作成など様々な安全管理業務に携わってきたが、その中でも特に重要であると感じているのがKY（危険予知）活動である。

私が一年目の頃は、朝礼の司会やKY活動の進行を担当する機会が多くあった。当初は人前で話すことに緊張し、作業内容や危険箇所について十分に理解できていないことも多かった。しかし毎日継続して行う中で、現場には様々な危険が潜んでおり、それらを事前に把握して共有することの重要性を学んだ。

私たちの現場では毎朝朝礼を行い、その後にKY活動を実施してから作業を開始する。また作業終了時にはKY用紙へ体調や負傷の有無を記入し、一日の作業を振り返る。振り返ってみると、現場は「KYに始まりKYに終わる」と言っても過言ではない。

私の従事している大湊浚渫工事では、冬期間の作業を経験した。現場は雪が多く、足元が非常に滑りやすい状況であった。作業通路や仮設設備周辺には常に転倒の危険があり、少しの油断が災害につながる環境であった。また、雪が解けた後も安心できるわけではなかった。雪解け水によって地盤が軟弱化し、足元がぬかるむことで思うように歩けない場所が数多くあった。資機材を運搬している際に足を取られたり、重機周辺でバランスを崩したりする危険もあった。

このような環境では「今日は昨日と同じ作業だから大丈夫」という考えは通用しない。同じ作業内容であっても天候や現場状況によって危険要因は変化する。そのため、毎朝のKY活動において「雪で滑りやすい箇所はないか」「転倒する危険はないか」「歩行ルートに問題はないか」を確認することが非常に重要であった。私はこの経験を通じて、KY活動は形式的に行うものではなく、その日の現場状況に応じた危険を洗い出すための重要な時間であることを実感した。

一方で、前現場では夏季施工を経験した。東北地方は冬が厳しい地域であるが、近年は夏の暑さも非常に厳しくなっている。特に屋外での建設作業では熱中症の危険が高く、安全管理上の大きな課題となっている。

私の経験した現場では熱中症対策として、水分補給用の飲み物を常時準備し、作業員がいつでも補給できる環境を整備した。また、現場内にシャッターハウスを設置して休憩所を確保し、その中に扇風機や冷感スプレーなどを配置することで、少しでも快適に休憩できる環境づくりを行った。こうした設備を準備するだけではなく、朝礼やKY活動において熱中症のリスクや体調確認について声掛けを行い、作業員同士でも体調変化に気付けるよう意識付けを行った。

熱中症は本人が気付かないうちに症状が進行することもある。そのため、KY活動を活用して「こまめな水分補給」「無理をしない」「体調不良時はすぐ報告する」といった基本事項を繰り返し確認することが重要であると感じた。

現在は二年目となり、一年目の頃よりも現場全体を見る機会が増えた。しかし、まだ経験不足で危険を見落としてしまうこともある。だからこそ、自分一人の判断に頼るのではなく、職長や作業員とのコミュニケーションを大切にし、多くの意見を取り入れながら危険予知を行っていきたい。

大湊浚渫工事では雪や雪解け水による転倒災害の危険を経験し、前現場では熱中症対策の重要性を学んだ。東北地方は冬の厳しい寒さに見舞われる一方で、近年は夏の暑さも年々厳しくなっている。そのため季節や現場条件によって危険要因は大きく変化する。

KY活動は、その変化する危険を事前に予知し、全員で共有するための最も基本的で重要な安全活動であると私は考えている。今後も現場経験を積みながら危険を見抜く力を養い、安全第一を常に意識して無事故・無災害の現場づくりに貢献していきたい。

【佳作】一覧表

堤防維持工事の安全について	株式会社瀬崎組	生出　和幸
熱中症の重症化 防止 対策	株式会社只野組	齊藤　明典
BIM/CIMを活用した建設現場における安全管理について	千田建設株式会社	内海　嘉徳
地盤改良工事における６つの潜在的リスクと安全管理の徹底	野口建設株式会社	千種　孝弘
橋梁補修 工事における安全管理	株式会社松浦組	平間　博之
上下作業での安全管理について	株式会社丸本組	阿部　実
林道工事における安全管理について	山形建設株式会社	吉田　隆晟
砂防堰堤工事における安全管理の工夫	株式会社丸高	齋藤　学
危険だらけの現場で気づいた“安全”の本質	株式会社武山興業	岩﨑　翔磨
現場代理人としての夏	奥田建設株式会社	大友　領
心理的安全性と安全管理	奥田建設株式会社	三國　哲
マンホール内作業にしのぶ危険と対策	伸和興業株式会社	石川　丈渡
地域に寄り添う建築と安全管理	仙建工業株式会社福島支店	岩屋　太都
鉄道複合工事における安全管理の重要性	仙建工業株式会社盛岡支店	開米　真司
コミュニケーションと安全－30年の現場で学んだこと－	日建工業株式会社	長谷川　力
事故を起こさないための現場環境	株式会社橋本店	我妻　聖也
ヒューマンエラーの恐ろしさ	株式会社橋本店	齋藤　祐輔
声掛けから始まる安全管理	佐藤工業株式会社	五十嵐　響
山岳トンネル工事におけるAIによる安全管理	清水建設株式会社東北支店	武田　隼汰
激甚災害河川復旧工事における安全管理	ピーエス・コンストラクション株式会社東北支店	長谷川　学
落語噺から学べる安全とコミュニケーションについて	株式会社安藤・間	田村　玲乃
現場の安全管理を形骸化させないための工夫	前田建設工業株式会社東北支店	木村　公一
小断面トンネルにおける安全対策	西松建設株式会社	船木　隆史
安全は「伝える力」から始まる	株式会社竹中土木	阪本　光弘
心理的安全性を高めるリーダーシップと現場安全の向上	鹿島建設株式会社東北支店	赤木　大輔
ＡＩ技術を活用した現場における安全管理	大成建設株式会社東北支店	渡邉　浩二
現場事務の立場から考える安全の本質	鹿島建設株式会社東北支店	中井　美月
帰還困難区域における車両移動の安全性向上　～汎用マップを用いた運行ルート共有と進捗の可視化～	前田建設工業株式会社東北支店	松本　涼
『いつもと違う』に気づけるか ― 安全を分ける一瞬の判断力 ―	株式会社ＮＩＰＰＯ東北支店	齋藤　千絵
安全は守られるものではなく、守るもの	日建工業株式会社	浦山　栞緒
高い安全意識を持とう！	日本道路株式会社山形営業所	向田　真生人
私の経験	世紀東急工業株式会社東北支店	角　天晶音
一瞬の勇気が一生を変える	世紀東急工業株式会社東北支店	髙橋　柊弥
コミュニケーション不足から生じる不安全要素	日建工業株式会社	橋本　佳浩
現場管理における安全意識の重要性について	福田道路株式会社仙台営業所	奥田　祥広
若手社員における業務走行中の事故	大成ロテック株式会社東北支社	横山　恵太
安全に対する主観と危険予測の重要性	世紀東急工業株式会社東北支店	我妻　るな
現場責任者として	ピーエス・コンストラクション株式会社東北支店	佐藤　直也
無災害記録4000日はなぜ達成できたか	株式会社横河ＮＳエンジニアリング	西　遥輝
六年目の現場の見え方	日特建設株式会社	青木　壱聖
11年間の経験から学んだ安全の大切さ	陽光建設株式会社	夏堀　泰尭
初めて現場代理人として挑む水道工事　～住民との対話から築く現場の安全習慣～	大管工業株式会社	三上　薫
安全管理について思うこと	東洋建設株式会社東北支店	菊池　泰颯
建設現場における安全の取り組み	大森建設株式会社	阿部　聖輝

安　全　の　誓　い

我々は、東北地方において実施される様々な公共事業や、近年激甚化・頻発化する自然災害からの復旧・復興事業などを全力で進めています。

このような状況の中、東北地方の建設業における労働災害発生状況は、近年、負傷者数、死亡者数共に減少傾向にあるものの、昨年、1,317名の方々が被害にあい、このうち15名の尊い命が失われました。

労働災害から労働者を守るためには、これまでの事故を教訓とし、また、関係者が一致協力して、職場における危険要因の排除に全力で取り組まなければなりません。

本大会では、「多様な人材　全員参加　みんなで育てる安全職場」をスローガンとして掲げ、決意を新たに取り組むこととします。

具体的には、次の取り組みを重点的かつ積極的に推進して参ります。

一　**各現場において「予定外作業」や「省略行動」の根絶に向けた対応ルールを設定の上、事故防止に取り組む。**

一　**安全施工サイクル活動の充実を図る。**

一　**健康の保持増進と快適な職場環境の形成を図る。**

以上、関係者一丸となって労働災害防止に全力で取り組むことをここに誓います。

令和８年10月８日
東北地方工事安全施工推進大会

多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場

SAFETY 2026

SAFETY 2026

東北地方工事安全施工推進大会実行委員会

国土交通省東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、
山形県、福島県、仙台市、東日本高速道路(株)東北支社、(一社)東北地域づくり協会、
(一社)東北建設業協会連合会、(一社)日本建設業連合会東北支部、
(一社)日本道路建設業協会東北支部、
(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会東北支部、
(一社)日本橋梁建設協会東北事務所、
(一社)全国特定法面保護協会東北地方支部、
(一社)全国道路標識・標示業協会東北支部、
(一社)日本埋立浚渫協会東北支部、東北港湾空港建設協会連合会、
青森県建設産業団体連絡協議会、(一社)岩手県建設産業団体連合会、
宮城県建設産業団体連合会、秋田県建設産業団体連合会、
(一社)山形県建設産業団体連合会、(一社)福島県建設産業団体連合会

後　援

建設産業専門団体東北地区連合会

事務局

東北地方整備局企画部技術管理課
TEL　022 - 225 - 2171

発行日　令和8年10月8日
本事業は、(一社)東北地域づくり協会　地域づくり支援事業の支援により実施しています。

VEGETABLE OIL INK